MP-A40 シリーズ
プリンタードライバー
取扱説明書

U00135983210

セイコーインスツル株式会社

U00135983200	2016 年　8 月
U00135983201	2018 年　1 月
U00135983202	2019 年　8 月
U00135983203	2020 年　5 月
U00135983204	2020 年　9 月
U00135983205	2021 年　5 月
U00135983206	2021 年　10 月
U00135983207	2022 年　10 月
U00135983208	2024 年　4 月
U00135983209	2024 年　11 月
U00135983210	2026 年　8 月

©セイコーインスツル株式会社　2016-2026
無断転載を禁じます。
Microsoft®、Windows®、および Microsoft Store は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。
Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
本書の内容は、断りなく変更することがあります。
本書及び本書に記載された製品の利用によって発生した
損害及びその回復に要する費用に対し、当社は一切の責任を負いかねます。
この取扱説明書を第三者に無断で頒布することを禁じます。

はじめに

本書はセイコーインスツル株式会社のMP-A40シリーズ向けプリンタードライバー（以降：プリンタードライバー）について説明します。

本書は原則、下記条件に基づき記載します。

- Windows 10（または11）の画面及び表示構成
- マウス及びキーボードによる操作方法

対象プリンターについて

プリンタードライバーでサポートするプリンター（本体）を下記に記載します。

- MP-A40シリーズ

用語について

本書で使用する用語について下記に記載します。

用語	内容
ツール	プリンタードライバーから起動できる各種ツール群。
プリンター名	プリンターフォルダーに表示され、ユーザーが変更できるフレンドリ名。
ドライバー名	プリンタードライバーを識別する固有のモデル名。
SDK	プリンタードライバーに付属する、直接プリンターと通信して制御することを目的とするアプリケーション開発向けダイナミックリンクライブラリ（DLL）。

用語	内容
プリンターコマンド	「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」に記載されているプリンターを制御するための命令。
テスト印刷コマンド	プリンタードライバーにおいてテスト印刷を行う命令。 ツールパネルの[テスト印刷]の[コマンドリスト(L)]に入力するコマンド群。
メモリスイッチ	「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 取扱説明書」に記載されている[機能設定]の機能。
NVイメージ	プリンターのNVメモリ(不揮発性メモリ)に登録されたイメージデータ。
IPD*1 フォント	プリンタードライバー独自の下記のフォントの総称。 ・ デバイスフォント ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
特殊フォント	IPDフォントで、プリンターコマンドの出力のために使用する下記のフォントの総称。 ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
メンテナンスカウンター	プリンターコマンドで取得できるメンテナンスカウンターの値。
プリンターステータス	プリンターコマンド「自動ステータス送信の有効・無効」で取得できる応答 応答内容については、「SII Printer Setting Utility for Windows 取扱説明書」を参照してください。
ドット	印字を構成する単位。 8ドットで1mmの印字。

＊1: Integrated Printer Driver (以降IPD)

表記について

本書では、オペレーティングシステムに依存する下記の内容を、共通名称として定義します。

プリンターフォルダー

本書の説明で使用する「プリンターフォルダー」とは、下記の操作により表示されるフォルダーを指します。

[コントロールパネル]⇒[ハードウェアとサウンド]⇒[デバイスとプリンター]の順に選択し、表示される[デバイスとプリンター]フォルダー

プリントサーバーのプロパティ

本書の説明で使用する「プリント サーバーのプロパティ」とは、下記の操作により表示されるプロパティを指します。

[プリンターフォルダー]内の任意のプリンターアイコンをクリック⇒[プリンターフォルダー]上部のツールバーに表示された[プリント サーバー プロパティ]を選択し、表示される[プリント サーバーのプロパティ]

ルートフォルダー

本書の説明で使用する「ルートフォルダー」とは、下記のフォルダーを指します。

<Windowsがインストールされているドライブ>:¥Users¥<ユーザー名>¥Documents¥
<プリンター名(SII MP-A40など)>¥

免責

本ソフトウェアの開発ではトラブルが発生しないよう十分留意していますが、万一、本製品によりお客様に直接的、間接的または波及効果による損害を及ぼした場合でも、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

1章　概要　1-1

1.1　はじめに　1-1
1.2　動作環境　1-1
1.3　メモリスイッチの利用条件　1-1
1.4　制限事項　1-2

2章　インストール　2-1

3章　印刷設定　3-1

3.1　レイアウト　3-2
3.1.1　レイアウトの設定　3-2
3.2　用紙・品質　3-3
3.2.1　用紙/品質の設定　3-3
3.3　書式設定　3-4
3.3.1　書式の設定　3-4
3.3.2　[設定ビュー]のマーク一覧　3-5
3.3.3　[設定リスト]のカテゴリ　3-6
3.3.4　プリセットの利用　3-6
3.3.5　基本設定　3-8
3.3.6　用紙送り設定　3-10
3.3.7　オプションの設定　3-11
3.3.8　バイナリエディターの使用方法　3-12
3.4　フォント　3-13
3.4.1　フォントの設定　3-13
3.4.2　[設定ビュー]のマーク一覧　3-14
3.4.3　[設定リスト]のカテゴリ　3-14
3.4.4　デバイスフォントの設定　3-15
3.4.5　バーコードフォントの設定　3-17
3.4.6　2次元バーコードフォントの設定　3-21
3.4.7　コントロールAフォントの設定　3-24
3.5　ウォーターマーク　3-25
3.5.1　ウォーターマーク　3-25
3.5.2　[設定ビュー]のマーク一覧　3-26
3.5.3　[設定リスト]のカテゴリ　3-26
3.5.4　ウォーターマークの設定　3-27
3.5.5　ウォーターマークの利用　3-28
3.6　詳細設定　3-29
3.6.1　詳細オプションの設定　3-29

4章　プロパティ　4-1

4.1　全般　4-2
4.1.1　全般の設定　4-2
4.2　共有　4-3

4.2.1 共有の設定 4-3
4.3 ポート 4-4
4.3.1 ポートの設定 4-4
4.4 デバイス 4-5
4.4.1 デバイスの設定 4-5
4.5 ツール 4-5

5章 ツール 5-1

6章 用紙設定 6-1
6.1 概要 6-1
6.2 用紙サイズ 6-3
6.3 余白 6-3
6.4 カスタム用紙の登録方法 6-5

7章 フォント 7-1
7.1 概要 7-1
7.2 デバイスフォント 7-3
7.2.1 デバイスフォントの種類の選択 7-3
7.2.2 デバイスフォントの印刷 7-4
7.3 バーコードフォント 7-5
7.3.1 バーコードフォントの種類の選択 7-5
7.3.2 バーコードフォントの印刷 7-6
7.4 2次元バーコードフォント 7-8
7.4.1 2次元バーコードフォントの種類の選択 7-8
7.4.2 2次元バーコードフォントの印刷 7-8
7.5 コントロールフォント 7-9
7.5.1 コントロールフォントの種類の選択 7-9
7.5.2 コントロールフォントの使用 7-9
7.6 コントロールAフォント 7-10
7.6.1 コントロールAフォントの種類の選択 7-10
7.6.2 コントロールAフォントの使用 7-10

1章　概要

1.1 はじめに

本章ではプリンタードライバーの概要について説明します。

1.2 動作環境

オペレーティングシステム及びサポートするインターフェイスについては、「SII ソフトウェアパッケージ for Windows インストールガイド」を参照してください。

1.3 メモリスイッチの利用条件

メモリスイッチを下記に設定してください。

メモリスイッチはツールにより変更できます。詳細は「SII Printer Setting Utiltiy for Windows 取扱説明書」を参照してください。

MS	項目名	設定条件
MS1-2	マークモード選択 (Mark Mode)	0：有効（Enable） / 1：無効（Disable）※1
MS1-3～5	コマンド体系選択 (Command System)	000：ESC/POS
MS2-2	リアルタイムコマンド選択 (Realtime Command)	0：有効（Enable）
MS9-1	自動ステータス応答機能選択 (Auto Status Back)	0：有効（Enable） / 1：無効（Disable）※2
MS9-2	イニシャライズ完了応答選択 (Init. Response)	0：有効（Enable）※2 ※3
MS13-1	漢字コード体系選択 (Kanji Code)	0：SJISコード（Shift-JIS Code）※4

※1: マーク紙の頭出しを行う場合は、本設定を「有効」にしてください。
マーク紙の頭出しを行わない場合は、本設定を「無効」にしてください。
※2: 通常は、本設定を「有効」にしてください。ただし「4.3 ポート」の「双方向サポートを有効にする」のチェックボックスをオフに選択した場合は、本設定を「無効」にしてください。
※3: SDKで[イニシャライズ完了応答]を取得する場合は、本設定を「有効」にしてください。
※4: SDKでHTMLデータを扱う場合は、本設定を「SJISコード」にしてください。

注意

◆ 上記以外の設定にした場合は、プリンタードライバーが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1.4 制限事項

プリンタードライバーには、下記の制限事項があります。

- Windows標準機能のスリープモード、休止モードでの印字化け等の異常動作については、保証対象外です。
- 専用のプリントプロセッサ(SII Print Processor)が無効になる設定(FILE出力含む)の場合は、すべての縮小機能が無効になります。
- プリンターコマンド「周辺機器の選択」において、プリンターを無効に選択した場合は、プリンタードライバーの機能はすべて利用できません。
- TCP/IP接続利用時に、複数のコンピューターで同一のIPアドレスを指定してインストールした場合は、ツール及びSDKを複数のコンピューターで同時利用することはできません。
また、印刷をキャンセルした場合は、正常に印刷されない場合があります。
- 印刷中断時にプリンターと未接続状態、またはプリンターがデータを受け付けない状態になっていた場合は、プリンターのリセット処理が正常に実施されず、印字化け等が発生する可能性があります。
- プリンター情報構造体(PRINTER_INFO)のステータス情報は反映されません。

2章　インストール

インストールについては、「SII ソフトウェアパッケージ for Windows インストールガイド」を参照してください。

3章　印刷設定

本章では印刷設定について説明します。

印刷設定は[印刷設定]ダイアログに各種設定画面が表示され、それぞれ確認及び変更できます。

[印刷設定]ダイアログ上で表示される設定画面には下記の種類があります。

- ・レイアウト　：印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。
- ・用紙/品質　：印刷モードを設定します。
- ・書式設定　：印刷書式を設定します。
- ・フォント　：IPDフォントを設定します。
- ・ウォーターマーク　：印刷内容に重ねるイメージを設定します。

[印刷設定]ダイアログ上の設定画面は下記の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内のプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示します。
2. 表示したサブメニューから[印刷設定(G)]を選択します。

各画面の詳細は次項以降で説明します。

注意

◆ Windowsストアアプリから印刷を行う場合は、[印刷設定]画面で設定可能な項目の一部しか表示されません。

3.1 レイアウト

印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。

3.1.1 レイアウトの設定

[レイアウト]タブを選択し、下記の画面を表示します。

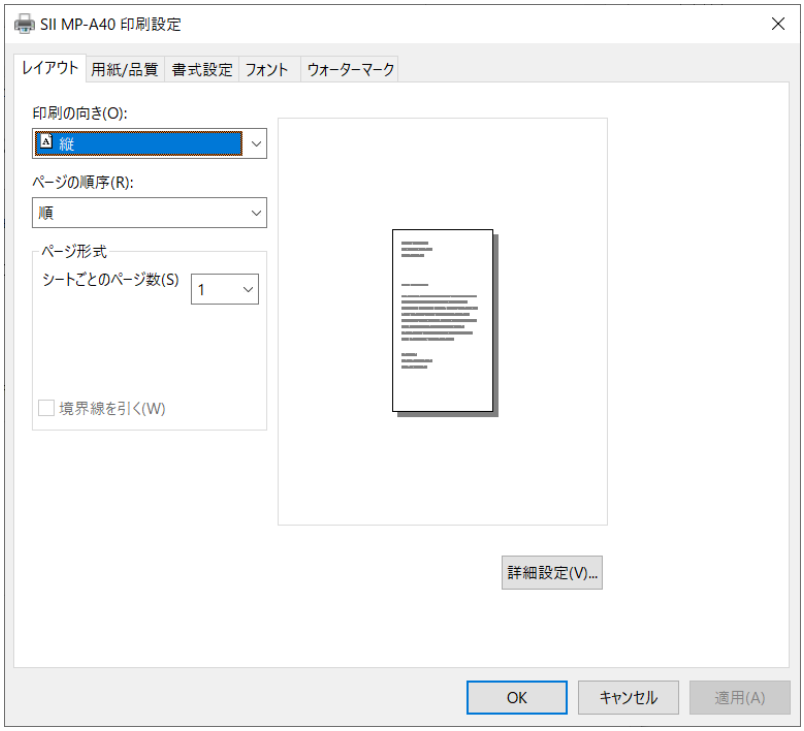


図 3-1 [レイアウト]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
印刷の向き(O)	印刷の向きを選択します。※1 ・縦 ・横
ページの順序(R)	印刷するページの順序を選択します。 ・順 ・逆
ページ形式	シートごとのページ数を設定します。
シートごとのページ数(S)	1シートごとに印刷するページ数を選択します。 ・ 1 ・ 2 ・ 4 ・ 6 ・ 9 ・ 16
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は「3.6 詳細設定」を参照してください。

※1: 「横」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

3.2 用紙・品質

印刷モードを設定します。

3.2.1 用紙/品質の設定

[用紙/品質]タブを選択し、下記の画面を表示します。

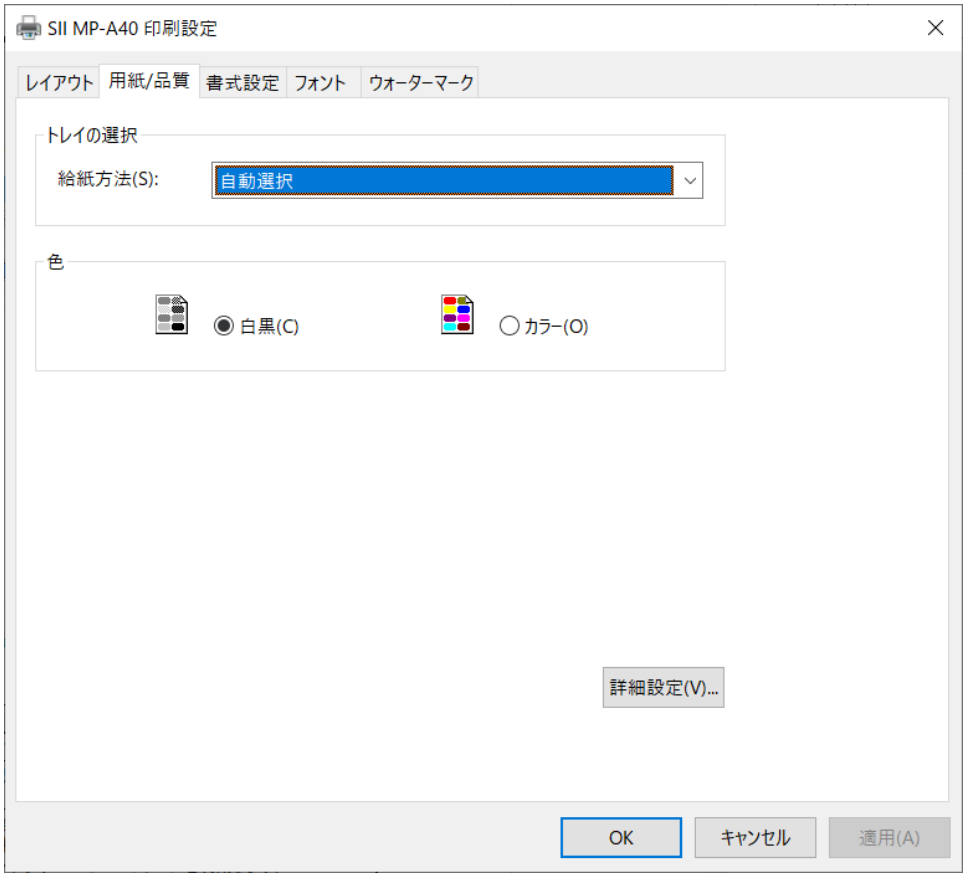


図 3-2 [用紙/品質]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
トレイの選択	給紙方法を設定します。
給紙方法(S)	給紙方法は「自動選択」で固定です。 ・自動選択
色	印刷モードを選択します。※1 ※2 ・白黒　(システム標準のハーフトーンを利用します) ・カラー　(プリンタードライバーのハーフトーンを利用します)
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は「3.6 詳細設定」を参照してください。

※1: 「カラー」を選択すると「3.6 詳細設定」の[ハーフトーン]で、「自動選択」以外は選択できません。
※2: 本設定は「3.6 詳細設定」の[カラー印刷モード]と連動します。

3.3 書式設定

印刷書式を設定します。

3.3.1 書式の設定

[書式設定]タブを選択し、下記の画面を表示します。

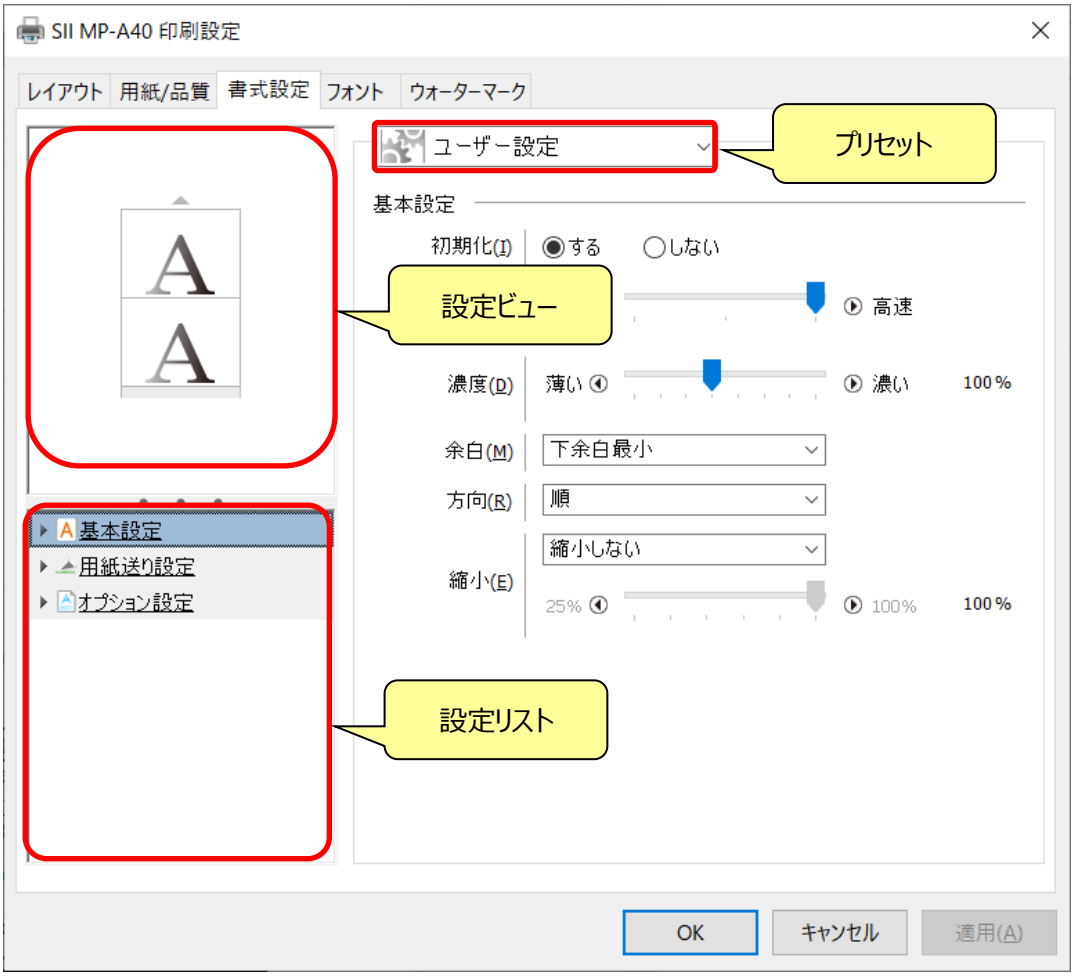


図 3-3 [書式設定]画面

項目	説明（"___":初期値）
設定ビュー	主な機能の設定状況を各種マークで表示します。 マークについては、「3.3.2 [設定ビュー]のマーク一覧」を参照してください。
設定リスト	書式設定の全機能をカテゴリ別に表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては、「3.3.3 [設定リスト]のカテゴリ」を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。

項目	説明（"___":初期値）
プリセット	各用途向けに予め登録されている設定内容に一括設定します。 ・112 mm レシート設定 ・105 mm レシート設定 ・100 mm レシート設定 ・ 80 mm レシート設定 ・112 mm マーク紙設定 ・105 mm マーク紙設定 ・100 mm マーク紙設定 ・ 80 mm マーク紙設定 ・A4->112 mm 縮小設定 ・A4->105 mm 縮小設定 ・A4->100 mm 縮小設定 ・A4-> 80 mm 縮小設定 ・ユーザー設定 各プリセットの設定内容は「3.3.4 プリセットの利用」を参照してください。

3.3.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[書式設定]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは下記の通りです。

項目	マーク	
印刷の向き(O)	 縦※1	 横※1
濃度(D)	 薄い	 濃い
余白(M)	 最小余白  上余白最小	 下余白最小  最大余白
方向(R)	 順※2	 逆※2

※1: [方向(R)]を「順」で選択している場合のマークです。
※2: [印刷の向き(O)]を「縦」で選択している場合のマークです。

3.3.3 [設定リスト]のカテゴリ

[設定リスト]で表示される機能のカテゴリは下記の通りです。

カテゴリ	説明
基本設定	初期化や印字速度等、基本的な項目について設定します。
用紙送り設定	カット位置までの紙送りや、マーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
オプション設定	印刷の各タイミングでの動作を設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.3.4 プリセットの利用

プリセットとは、予め各用途向けに決められたパラメーターに一括設定できる機能です。
プリセットで設定された項目のうち、いずれかの設定が変更されればその時点でプリセットは解除され、[プリセット]は「ユーザー設定」に変更されます。
プリセットを変更すると書式設定以外の項目も指定したプリセットの設定内容に変更されます。その際、各設定が変更されるメッセージは表示されません。

設定できるプリセットの種類とその設定内容は下記の通りです。

プリセット種類	項目		内容
112 mm レシート設定 105 mm レシート設定 100 mm レシート設定 80 mm レシート設定	詳細設定		
		用紙サイズ	112 x 297 mm 105 x 297 mm 100 x 297 mm 80 x 297 mm
	書式設定		
		基本設定	
		縮小(E)	縮小しない
		用紙送り設定	
		カット位置まで紙送り(F)	する
		マーク紙の頭出し(M)	しない
		頭出し位置の補正(O)	0 dot
112 mm マーク紙設定 105 mm マーク紙設定 100 mm マーク紙設定 80 mm マーク紙設定	詳細設定		
		用紙サイズ	112 x 297 mm 105 x 297 mm 100 x 297 mm 80 x 297 mm
	書式設定		
		基本設定	
		縮小(E)	縮小しない
		用紙送り設定	
		カット位置まで紙送り(F)	しない
		マーク紙の頭出し(M)	ページ単位
		頭出し位置の補正(O)	0 dot

プリセット種類	項目			内容
A4->112 mm 縮小設定 A4->105 mm 縮小設定 A4->100 mm 縮小設定 A4-> 80 mm 縮小設定	詳細設定			
		用紙サイズ		A4
	書式設定			
		基本設定		
			縮小(E)	112 mm用紙にフィット 105 mm用紙にフィット 100 mm用紙にフィット 80 mm用紙にフィット
		用紙送り設定		
			カット位置まで紙送り(F)	する
			マーク紙の頭出し(M)	しない
			頭出し位置の補正(O)	0 dot

各プリセット共通の設定内容は下記の通りです。

種類	項目			内容
共通設定	レイアウト			
		印刷の向き(O)		縦
	書式設定			
		基本設定		
			初期化(I)	する
			速度(S)	標準
			濃度(D)	100 %
			余白(M)	下余白最小
			方向(R)	順
	オプション設定			
		(全タイミング共通)		
			ロゴ有無(L)	なし
			紙送り(F)	0 dot
			コマンド送信(S)	(空欄)
	ウォーターマーク			
		ウォーターマーク設定		
			イメージ(I)	なし

3.3.5 基本設定

[設定リスト]の[基本設定]を選択し、下記の画面を表示します。

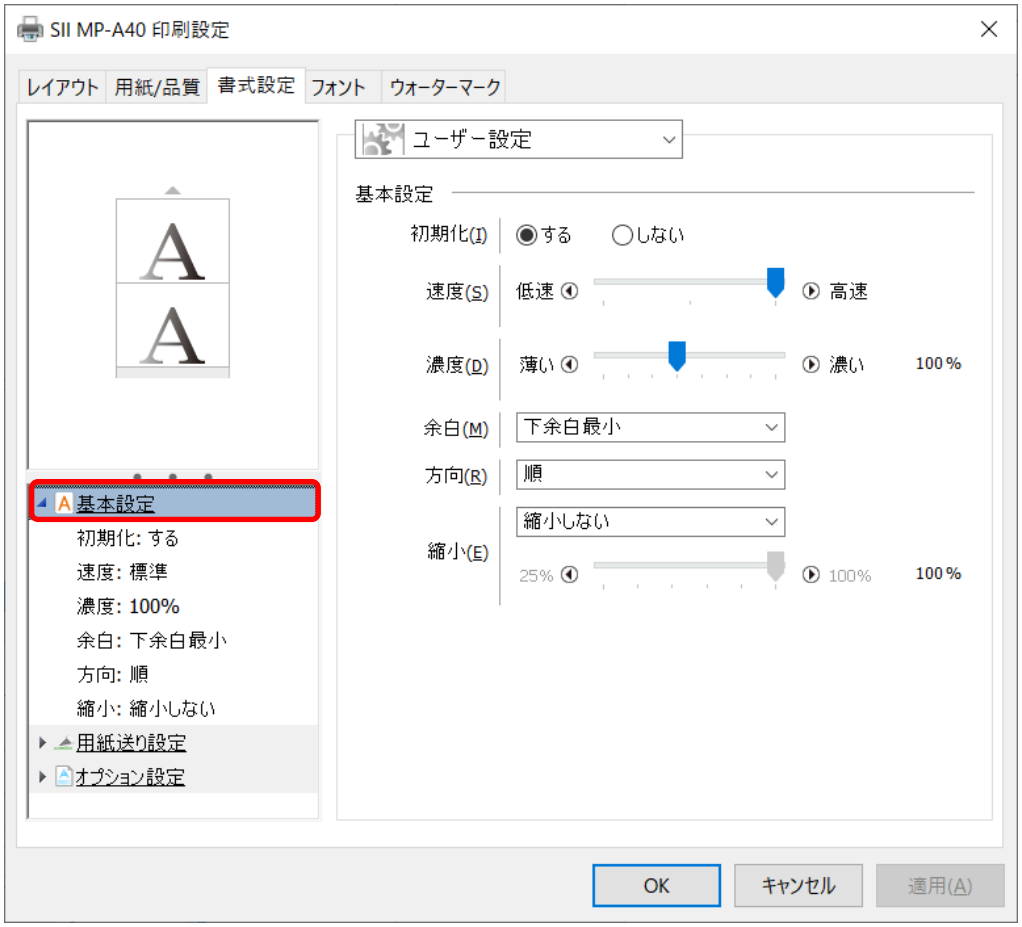


図 3-4 [基本設定]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
基本設定	初期化、印刷速度等、基本的な項目について設定します。
初期化(I)	印刷前にプリンターを初期化するか、初期化しないかを選択します。 ・<u>する</u> ・しない
速度(S)※1	印刷速度を選択します。 ・<u>標準</u> ・品質1 ・品質2
濃度(D)	印刷濃度を設定します。(単位:%) ・70 ～ 140※2 (<u>100</u>)
余白(M)	余白を選択します。※3 ・最小余白 ・上余白最小 ・<u>下余白最小</u> ・最大余白
方向(R)	印刷排出の方向を選択します。※4 ・<u>順</u> ・逆

項目	説明 (″___″:初期値)
縮小(E)	縮小印刷を設定します。※5 ・縮小しない ・112 mm用紙にフィット ・105 mm用紙にフィット ・100 mm用紙にフィット ・ 80 mm用紙にフィット ・指定倍率[25 ～ 100](単位:%)

※1: 標準: 最も高速に印字できます。
品質1: 「標準」より印字速度が低下しますが、イメージやバーコードの印字に適しています。
品質2: 「品質1」より印字速度が低下しますが、最も高品質に印字できます。

※2: プリンターのファームウェアバージョンがVer 2.03.00以降の場合は、印刷濃度を140%まで設定できます。Ver 2.03.00よりも前のバージョンの場合は、印刷濃度は130%までの設定としてください。
プリンターのファームウェアバージョンはテスト印字で確認できます。テスト印字の手順については、「サーマルプリンタ MP-A40 シリーズ 取扱説明書」を参照してください。

※3: 印刷内容が30mmに満たない場合は、30mmとなるまで紙送りします。

※4: 「逆」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

※5: 「縮小しない」以外に設定すると、IPDフォントは使用できません。

参考

- 方向
  [方向(R)]を「逆」に設定すると、印刷するデータを180度回転させることができます。
- 余白の節約
  [余白(M)]を設定することで余白長が短くなり用紙の節約ができます。

	印刷開始から 最初の印刷データまでの 余白を節約	最後の印刷データから 印刷終了までの 余白を節約
・最小余白	✓	✓
・上余白最小	✓	―
・下余白最小	―	✓
・最大余白	―	―

余白の詳細については、「6.3 余白」を参照してください。

3.3.6　用紙送り設定

[設定リスト]の[用紙送り設定]を選択し、下記の画面を表示します。

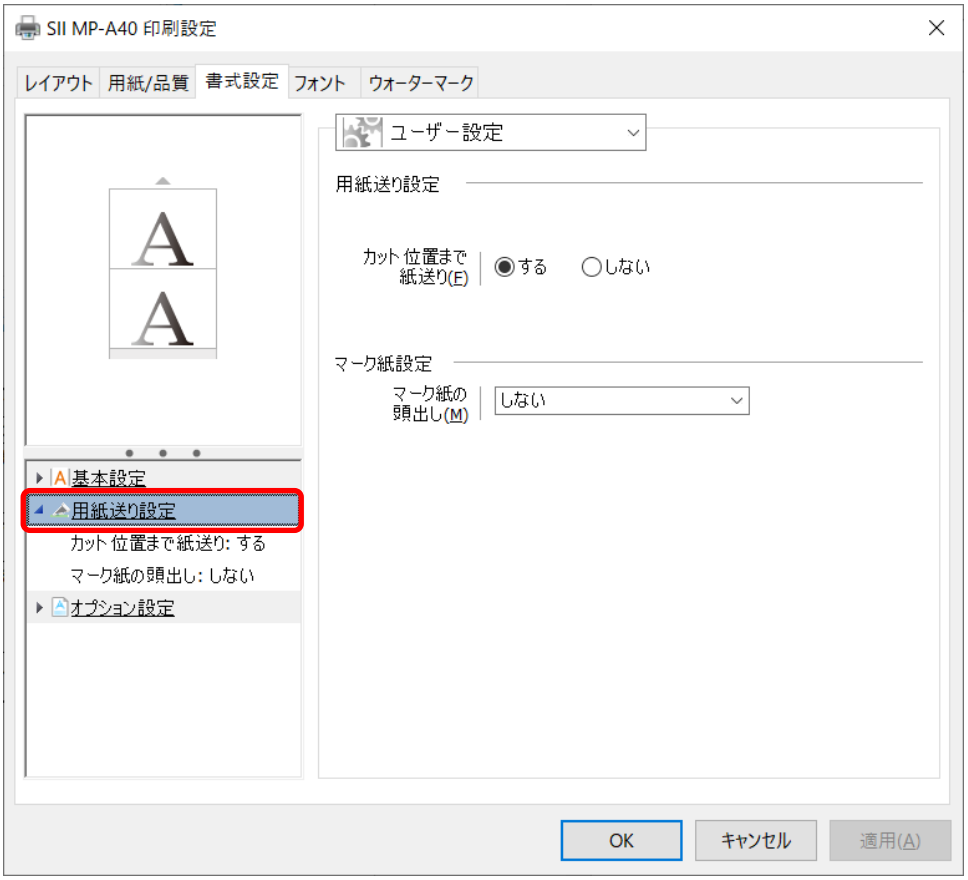


図 3-5 [用紙送り設定]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
用紙送り設定	カット位置までの紙送りについて設定します。
カット位置まで紙送り(F)	カット位置までの紙送りをするか、しないかを選択します。 ・する ・しない
マーク紙設定	マーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
マーク紙の頭出し(M)	ブラックマークの検出動作を設定します。 ・しない ・ページ単位 ・ジョブ単位
頭出し位置の補正(O)	頭出し位置の補正を設定します。(単位:dot) ・-48 ～ 255 (0)

3.3.7 オプションの設定

[設定リスト]の[オプション設定]を選択し、下記の画面を表示します。

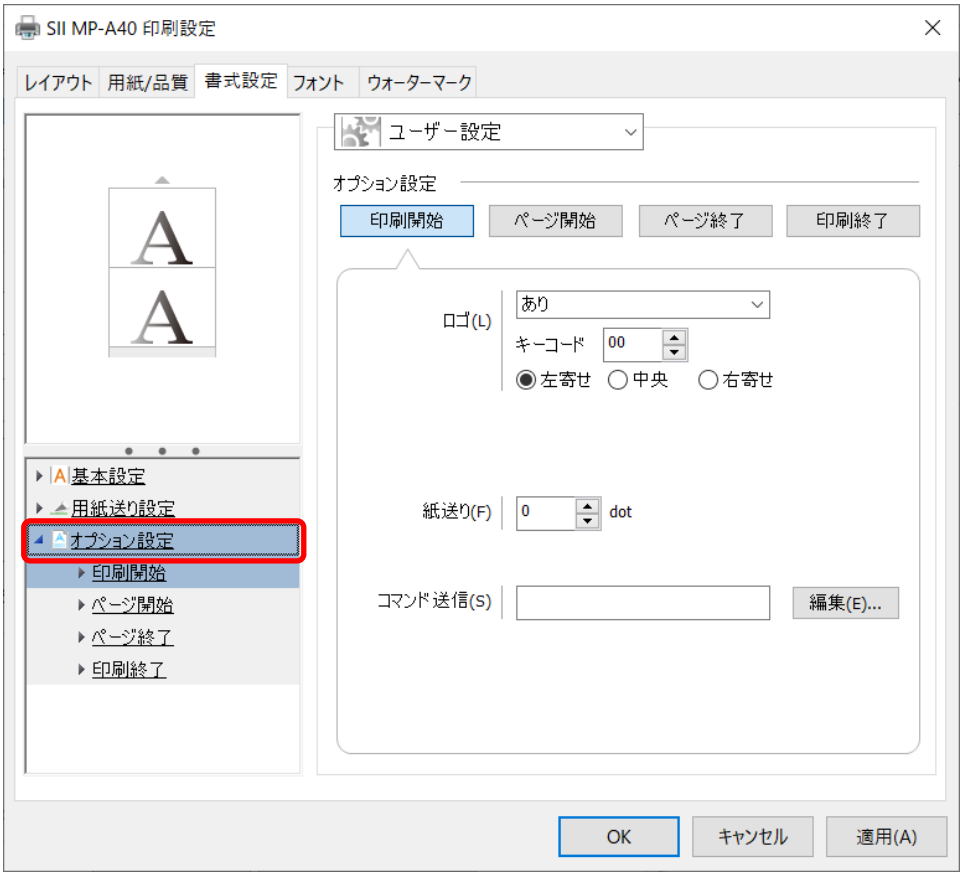


図 3-6 [オプション設定]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
オプション設定	ロゴ、紙送り、及びコマンド送信について設定します。
印刷開始 ページ開始 ページ終了 印刷終了	各タイミングでの動作を設定します。
ロゴ(L)	ロゴについて設定します。
ロゴ有無	ロゴの有無を選択します。 ・なし ・あり
キーコード	ロゴに使用するキーコードを設定します。 ・00 ～ 99
ロゴ位置	ロゴを印刷する位置を選択します。 ・左寄せ ・中央 ・右寄せ
紙送り(F)	紙送りを設定します。(単位:dot) ・-48 ～ 255 (0)

項目		説明 (″___″:初期値)
コマンド送信(S)		送信するプリンターコマンドを設定します。
	コマンドデータ	送信するプリンターコマンドを表示します。※1 入力には[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
	編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。 入力したプリンターコマンドは[コマンドデータ]に表示されます。 指定可能バイト数は最大128バイトです。 バイナリエディターについては、「3.3.8 バイナリエディターの使用方法」を参照してください。

※1: 直接入力は受け付けません。

参考

- ロゴ
  定型のイメージをロゴとして印刷する機能です。ロゴに使用するイメージはNVイメージを利用します。NVイメージについては、「SII Printer Setting Utiltiy for Windows 取扱説明書」を参照してください。

3.3.8 バイナリエディターの使用方法

プリンターコマンドや任意のデータを入力するコントロールでは、バイナリエディターを使用します。

バイナリエディターは下記の場合に使用します。

- [書式設定]の[オプション設定]の[コマンド送信(S)]
- [コントロールAフォント設定]
- [ツール]の[テスト印刷]の[カスタムコマンド(U)]の設定

[編集(E)...]ボタンをクリックし、下記の画面を表示します。

16進数を入力し、[OK]ボタンをクリックすると入力が確定します。

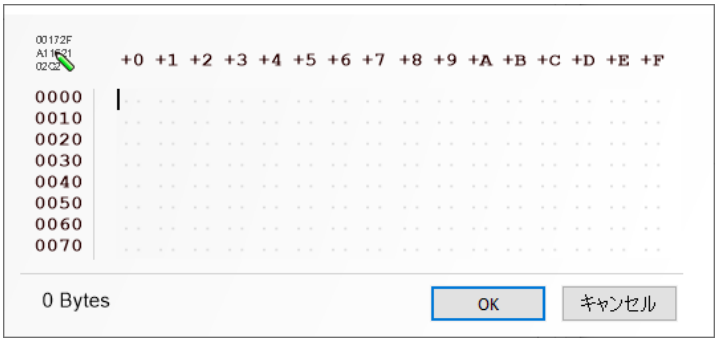


図 3-7 [バイナリエディター]画面

3.4 フォント

IPDフォントを設定します。

注意

◆ 以下の設定の場合、IPDフォントの設定は利用できません。
- 「3.1.1 レイアウトの設定」の[印刷の向き(O)] :「横」
- 「3.3.5 基本設定」の[方向(R)] :「逆」
- 「3.3.5 基本設定」の[縮小(E)] :「縮小しない」以外
- 「3.5.4 ウォーターマークの設定」の[イメージ(I)] :「NVイメージ」

参考

- IPDフォントについては、「7章 フォント」を参照してください。

3.4.1 フォントの設定

[フォント]タブを選択し、下記の画面を表示します。

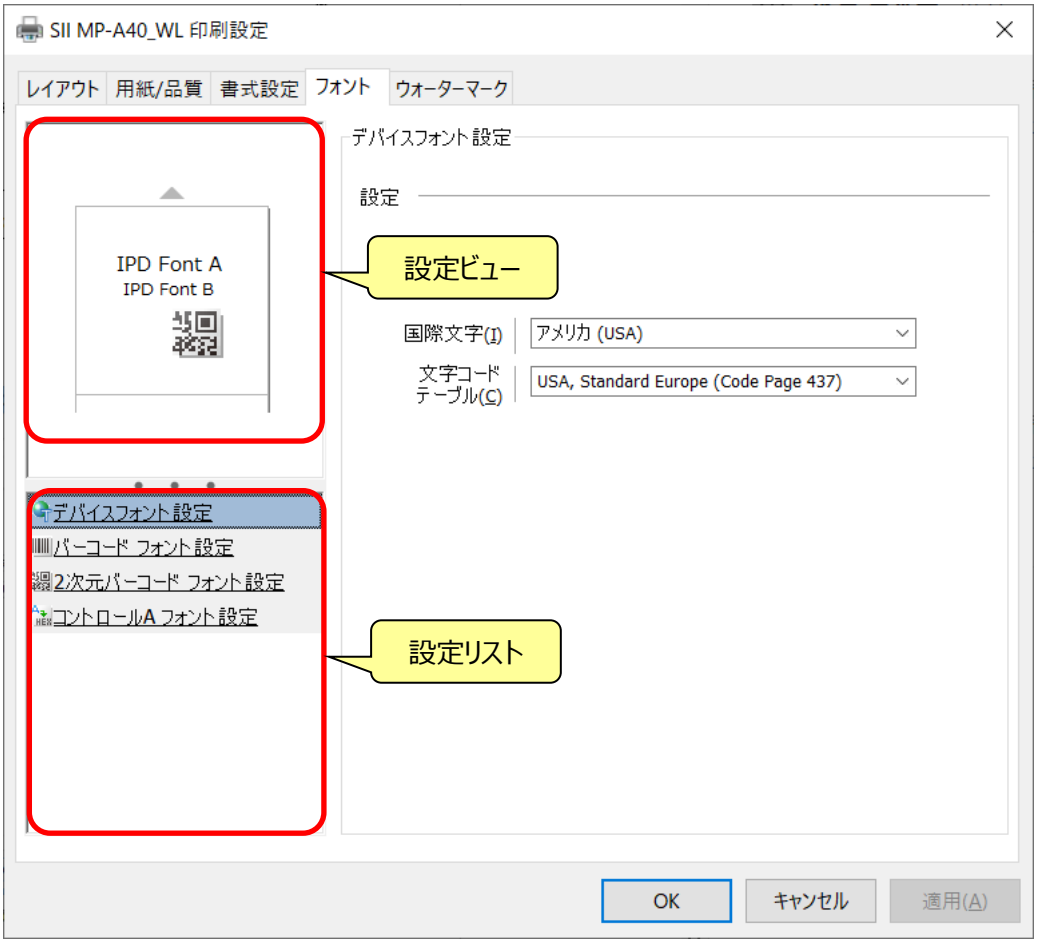


図 3-8 [フォント]画面

項目	説明
設定ビュー	現在の設定状況でIPDフォントが利用できるかをマークで表示します。 マークについては、「3.4.2 [設定ビュー]のマーク一覧」を参照してください。
設定リスト	フォントのカテゴリ名を表示します。 カテゴリ名を選択すると該当する設定画面を表示します。

3.4.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[フォント]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは下記の通りです。

状況	マーク
IPDフォント利用可	
IPDフォント利用不可	

3.4.3 [設定リスト]のカテゴリ

[フォント]画面の[設定リスト]で表示されるカテゴリは下記の通りです。

カテゴリ	説明
デバイスフォント設定	デバイスフォントで使用する国際文字と文字コードテーブルについて設定します。
バーコードフォント設定	バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
2次元バーコードフォント設定	2次元バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
コントロールAフォント設定	コントロールAフォントに割り当てるプリンターコマンドについて設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.4.4 デバイスフォントの設定

[設定リスト]の[デバイスフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

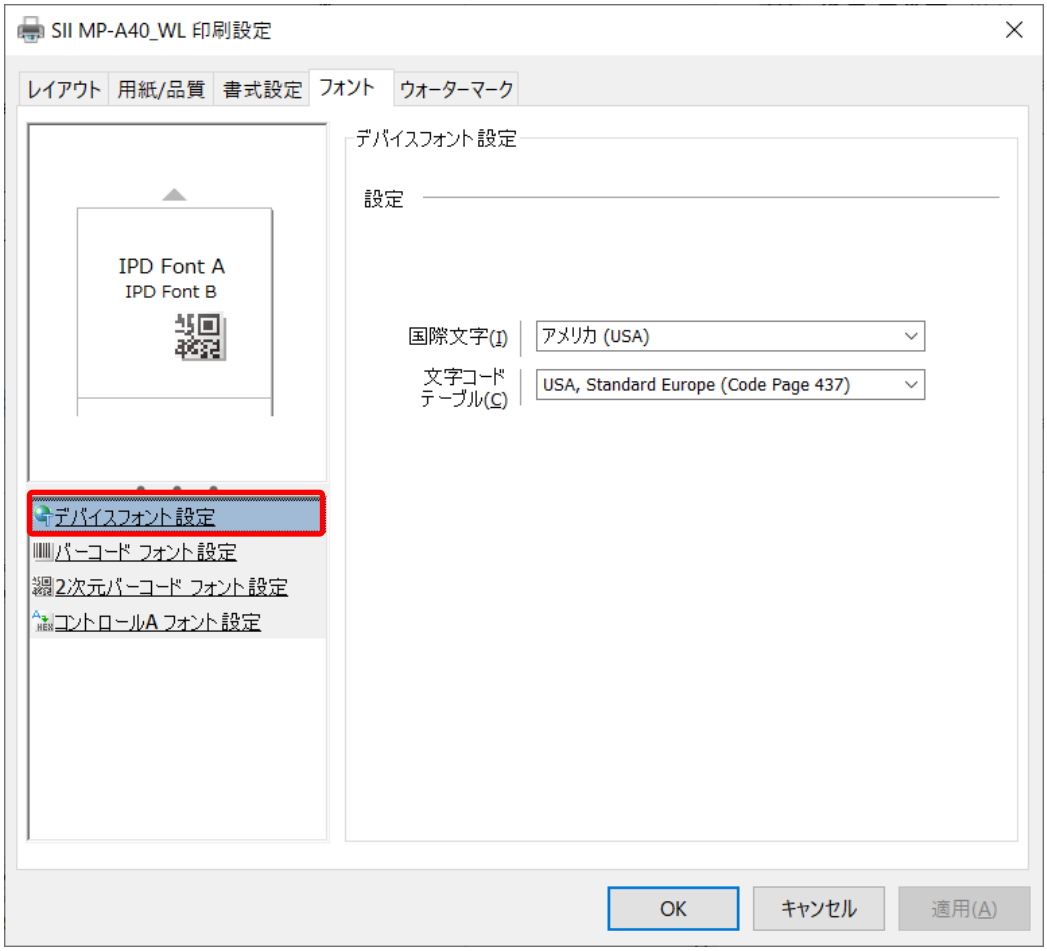


図 3-9 [デバイスフォント設定]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
設定	デバイスフォントについて設定します。
国際文字(I)	国際文字を選択します。 ・ アメリカ(USA) ・ フランス(France) ・ ドイツ(Germany) ・ イギリス(United Kingdom) ・ デンマークⅠ(Denmark I) ・ スウェーデン(Sweden) ・ イタリア(Italy) ・ スペインⅠ(Spain I) ・ 日本(Japan) ・ ノルウェー(Norway) ・ デンマークⅡ(Denmark II) ・ スペインⅡ(Spain II) ・ ラテンアメリカ(Latin America) ・ アラビア(Arabia)

項目	説明 (″___″:初期値)
文字コードテーブル(C)	文字コードテーブルを選択します。 ・ USA, Standard Europe (Code Page 437) ・ Katakana ・ Multilingual (Code Page 850) ・ Portuguese (Code Page 860) ・ Canadian-French (Code Page 863) ・ Nordic (Code Page 865) ・ Turkish (Code Page 857) ・ Greek (Code Page 737) ・ Latin (Code Page 1252) ・ Russian (Code Page 866) ・ Eastern Europe (Code Page 852) ・ Euro (Code Page 858) ・ Cyrillic (Code Page 855) ・ Arabic (Code Page 864) ・ Central European (Code Page 1250) ・ Cyrillic (Code Page 1251) ・ Greek (Code Page 1253) ・ Turkish (Code Page 1254) ・ ユーザーページ

3.4.5 バーコードフォントの設定

[設定リスト]の[バーコードフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

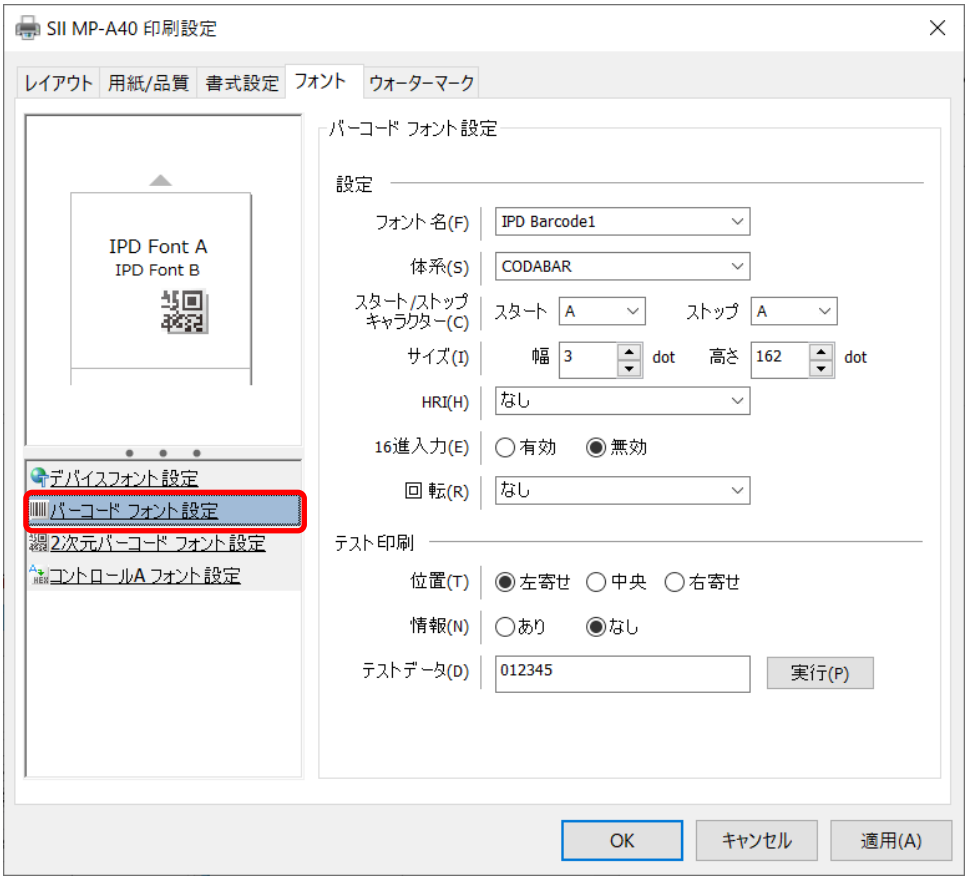


図 3-10 [バーコードフォント設定]画面

項目	説明（"___":初期値）
設定	バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F)	フォント名を選択します。 ・IPD Barcode1 ・IPD Barcode2 ・IPD Barcode3 ・IPD Barcode4 ・IPD Barcode5 ・IPD Barcode6 ・IPD Barcode7 ・IPD Barcode8 ・IPD Barcode9 ・IPD Barcode10

項目	説明（"___":初期値）
体系(S)	バーコードの体系を選択します。 ・UPC-A ・UPC-E ・JAN13 (EAN13) ・JAN8 (EAN8) ・Code39 ・ITF ・CODABAR ・CODE128 ・CODE93 ・JAN13 (EAN13) add-on 2 ・JAN13 (EAN13) add-on 5 ・GS1 Databar Omni-directional ・GS1 Databar Truncated ・GS1 Databar Limited ・GS1 Databar Expanded
スタート/ストップ キャラクター(C)	スタートキャラクター/ ストップキャラクターを設定します。※1
Start	「CODABAR」のスタートキャラクターを選択します。 ・A ・B ・C ・D
Stop	「CODABAR」のストップキャラクターを選択します。 ・A ・B ・C ・D
サイズ(I)	バーコードのサイズを設定します。
幅	バーコードの細エレメント幅またはモジュール幅をドット単位で設定します。 ・2 ～ 6 (3)
高さ	バーコードの高さをドット単位で設定します。 ・ 1 ～ 255 (162) ただし、下記のバーコードは[幅]の選択によって設定可能な範囲が異なります。※2 ➢ GS1 Databar Omni-directional ➢ GS1 Databar Truncated ➢ GS1 Databar Limited ➢ GS1 Databar Expanded
HRI(H)	バーコードに付加するHRI文字の位置及びフォントを選択します。 ・なし ・バーコードの上（フォントA） ・バーコードの下（フォントA） ・バーコードの上下（フォントA） ・バーコードの上（フォントB） ・バーコードの下（フォントB） ・バーコードの上下（フォントB）

項目	説明（"___":初期値）
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合は、「有効」を選択します。※3 ・有効 ・無効
回転(R)	バーコードの印刷時の回転有無と回転時の角度を選択します。 ・なし ・右に90度 ・180度 ・左に90度
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	バーコードの位置を選択します。 ・左寄せ ・中央 ・右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・あり ・なし
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角入力のみ有効です。※3
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]でバーコードを印刷します。※4

※1: [体系(S)]で「CODABAR」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※2: バーコードの高さの値の範囲は下記の通りです。
[高さ]の値を最小値未満に指定した場合は、値は自動的に最小値へ変更されます。

[体系(S)]	[幅]	[高さ]の値の範囲
GS1 Databar Omni-directional	2	66 ～ 255
	3	99 ～ 255
	4	132 ～ 255
	5	165 ～ 255
	6	198 ～ 255
GS1 Databar Truncated	2	26 ～ 255
	3	39 ～ 255
	4	52 ～ 255
	5	65 ～ 255
	6	78 ～ 255
GS1 Databar Limited	2	20 ～ 255
	3	30 ～ 255
	4	40 ～ 255
	5	50 ～ 255
	6	60 ～ 255
GS1 Databar Expanded	2	68 ～ 255
	3	102 ～ 255
	4	136 ～ 255
	5	170 ～ 255
	6	204 ～ 255

※3:　バーコードフォントデータの入力形式は下記の通りです。
　　バーコードフォントデータ(012345)入力例
　　[16進入力(E)]が「無効」の場合　:012345
　　[16進入力(E)]が「有効」の場合　:303132333435
※4:　[テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.4.6　2次元バーコードフォントの設定

[設定リスト]の[2次元バーコードフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

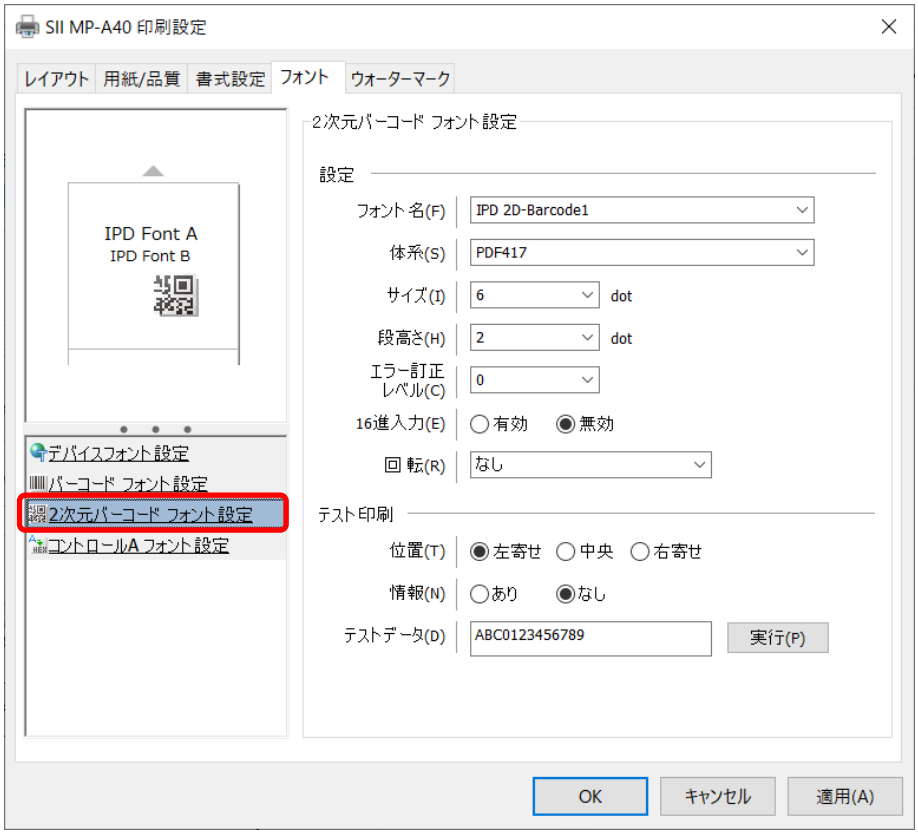


図 3-11　[2次元バーコードフォント設定]画面

項目	説明（"___":初期値）
設定	2次元バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F)	フォント名を選択します。 ・IPD 2D-Barcode1 ・IPD 2D-Barcode2 ・IPD 2D-Barcode3 ・IPD 2D-Barcode4 ・IPD 2D-Barcode5
体系(S)	2次元バーコードの体系を選択します。 ・QR Code Model-2 ・PDF417 ・Data Matrix ・Maxi Code ・GS1 Databar Stacked ・GS1 Databar Stacked Omni-directional ・GS1 Databar Expanded Stacked
サイズ(I)	1モジュールのサイズをドット単位で設定します。※1 ・2 ～ 16 (6)※2 ・2 ～ 8 (3)※3
段高さ(H)	段高さをドット単位で設定します。※4 ・ 2 ～ 127 (10)※5 ・33 ～ 255※6

項目	説明（"___":初期値）
エラー訂正レベル(C)	QR Codeのエラー訂正レベルを選択します。※7 ※8 ・L ・M ・Q ・H PDF417のエラー訂正レベルを選択します。※7 ※9 ・0 ～ 8
モード(M)	モードを選択します。※10 ・Mode 2 ・Mode 3 ・Mode 4 ・Mode 5
モジュール数(O)	モジュール数を選択します。※11 ・Auto ・10×10 ・12×12 ・14×14 ・16×16 ・18×18 ・20×20 ・22×22 ・24×24 ・26×26 ・32×32 ・36×36 ・40×40 ・44×44 ・48×48 ・52×52 ・64×64 ・72×72 ・80×80 ・88×88 ・96×96 ・104×104 ・120×120 ・132×132 ・144×144 ・8×18 ・8×32 ・12×26 ・12×36 ・16×36 ・16×48
エレメント数(L)	エレメント数を設定します。※12 ・2 ～ 20 (10)
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合は、「有効」を選択します。※13 ・有効 ・無効

項目	説明（"___":初期値）
回転(R)	2次元バーコードの印刷時の回転有無と回転時の角度を選択します。 ・なし ・右に90度 ・180度 ・左に90度
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	2次元バーコードの位置を選択します。 ・左寄せ ・中央 ・右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・あり ・なし
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角文字及び全角文字のいずれも有効です。※13
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]で2次元バーコードを印刷します。※14

※1: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。
- QR Code Model-2
- PDF417
- Data Matrix
- GS1 Databar Stacked
- GS1 Databar Stacked Omni-directional
- GS1 Databar Expanded Stacked

※2: [体系(S)]で下記を選択した場合の値です。
- QR Code Model-2
- Data Matrix
- GS1 Databar Stacked
- GS1 Databar Stacked Omni-directional
- GS1 Databar Expanded Stacked

※3: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の値です。

※4: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。
- PDF417
- GS1 Databar Stacked Omni-directional

※5: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の値です。

※6: [体系(S)]で「GS1 Databar Stacked Omni-directional」を選択した場合の値です。

※7: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。
- QR Code Model-2
- PDF417

※8: [体系(S)]で「QR Code Model-2」を選択した場合の値です。

※9: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の値です。

※10: [体系(S)]で「Maxi Code」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※11: [体系(S)]で「Data Matrix」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※12: [体系(S)]で「GS1 Databar Expanded Stacked」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※13: バーコードフォントデータの入力形式は下記の通りです。
バーコードフォントデータ(012345)入力例
[16進入力(E)]が「無効」の場合 :012345
[16進入力(E)]が「有効」の場合 :303132333435

※14: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.4.7 コントロールAフォントの設定

[設定リスト]の[コントロールAフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

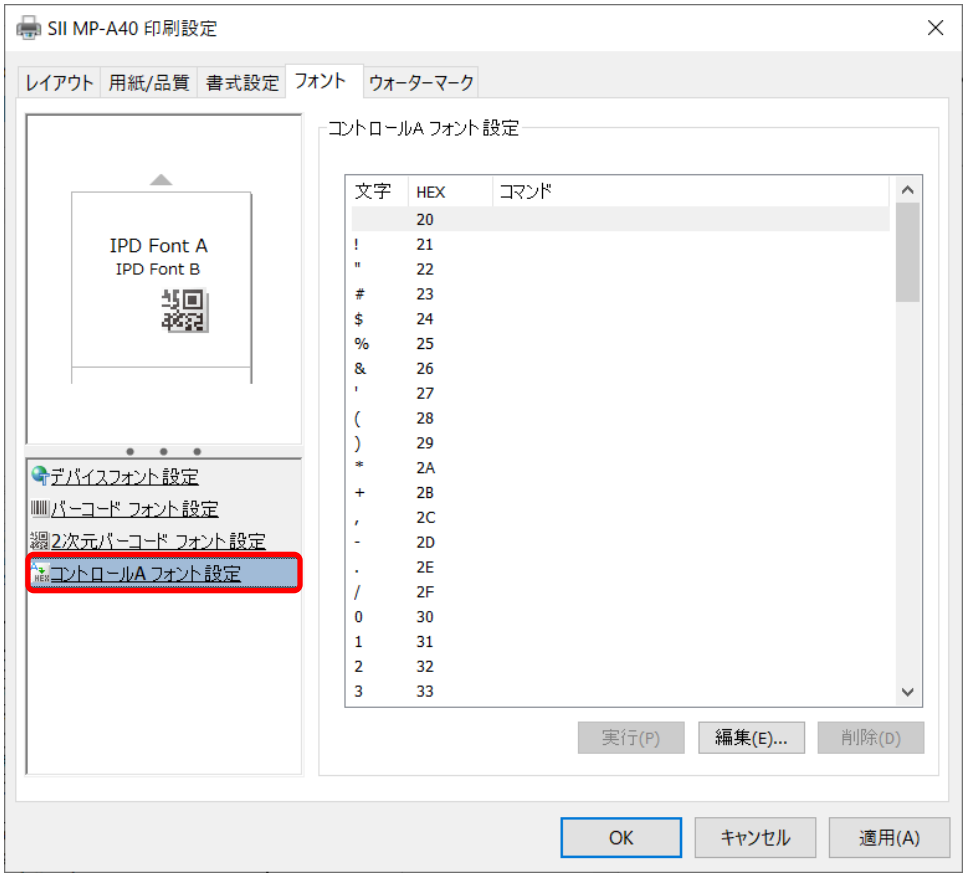


図 3-12 [コントロールAフォント設定]画面

項目	説明
文字	プリンターコマンドを割り当てる文字を表示します。
HEX	[文字]を16進数で表示します。
コマンド	設定されているプリンターコマンドを表示します。 プリンターコマンドの入力は[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
実行(P)	選択中のリストに入力されているプリンターコマンドを実行します。※1
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。※2 入力したプリンターコマンドは[コマンド]列に表示されます。 指定可能バイト数は最大256バイトです。 バイナリエディターについては、「3.3.8 バイナリエディターの使用方法」を参照してください。
削除(D)	選択中のリストの[コマンド]欄をクリアします。※1 ※2

※1: 選択中のリストの[コマンド]が空白の場合は、操作できません。
※2: アプリケーションからの印刷時に起動された[印刷設定]画面からは操作できません。操作が必要な場合は、プリンターフォルダーから[印刷設定]画面を起動してください。

3.5 ウォーターマーク

印刷内容に重ねるイメージを設定します。

重ねるイメージはユーザーが事前にプリンターに登録したNVイメージを使用します。

ウォーターマークを利用するにはNVイメージの登録が必要です。NVイメージの登録については、「SII Printer Setting Utiltiy for Windows 取扱説明書」を参照してください。

注意

◆ ウォーターマークとして使用するNVイメージが印刷領域よりも大きい場合、ウォーターマーク印刷はされません。

3.5.1 ウォーターマーク

[ウォーターマーク]タブを選択し、下記の画面を表示します。

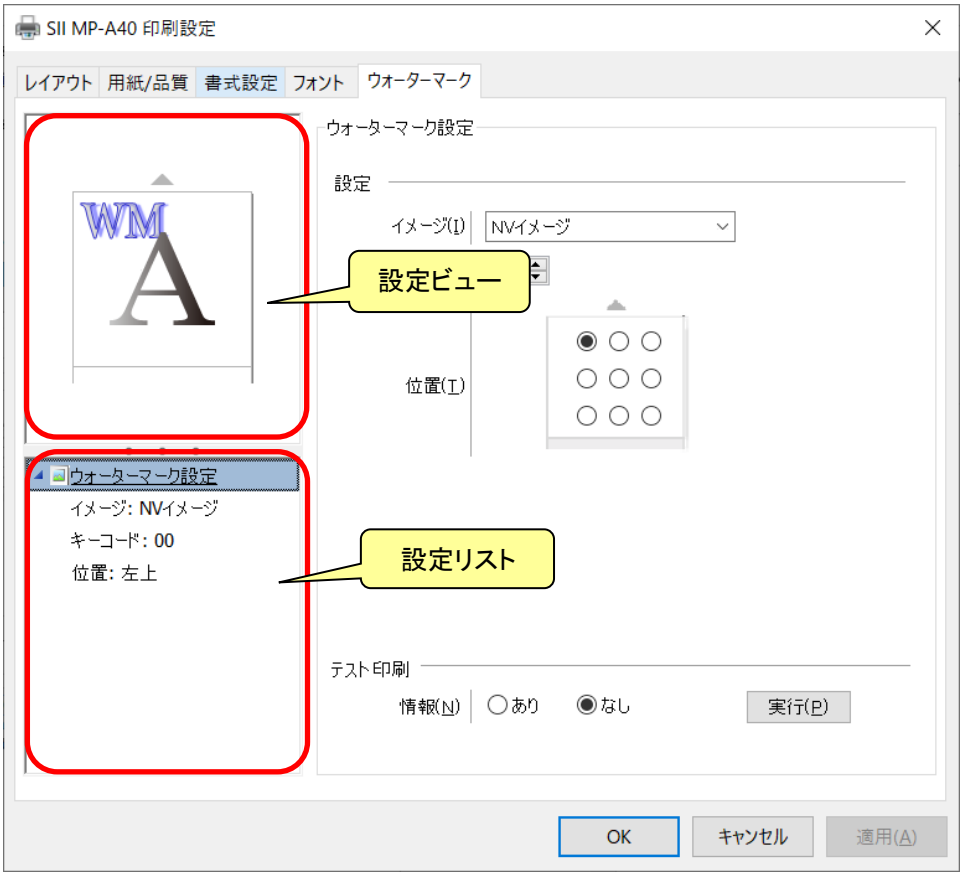


図 3-13 [ウォーターマーク]画面

項目	説明
設定ビュー	ウォーターマークの位置をマークで表示します。 詳しくは「3.5.2 [設定ビュー]のマーク一覧」を参照してください。
設定リスト	ウォーターマークの設定をカテゴリで表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては、「3.5.3 [設定リスト]のカテゴリ」を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。

3.5.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[ウォーターマーク]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは下記の通りです。

項目	マーク		
位置(T)	 左上	 中央上	 右上
	 左	 中央	 右
	 左下	 中央下	 右下

3.5.3 [設定リスト]のカテゴリ

[ウォーターマーク]画面の[設定リスト]で表示される設定は下記の通りです。

カテゴリ	説明
ウォーターマーク設定	ウォーターマークについて設定します。

ウォーターマーク設定については、次項以降で説明します。

3.5.4 ウォーターマークの設定

[ウォーターマーク]タブを選択し、下記の画面を表示します。

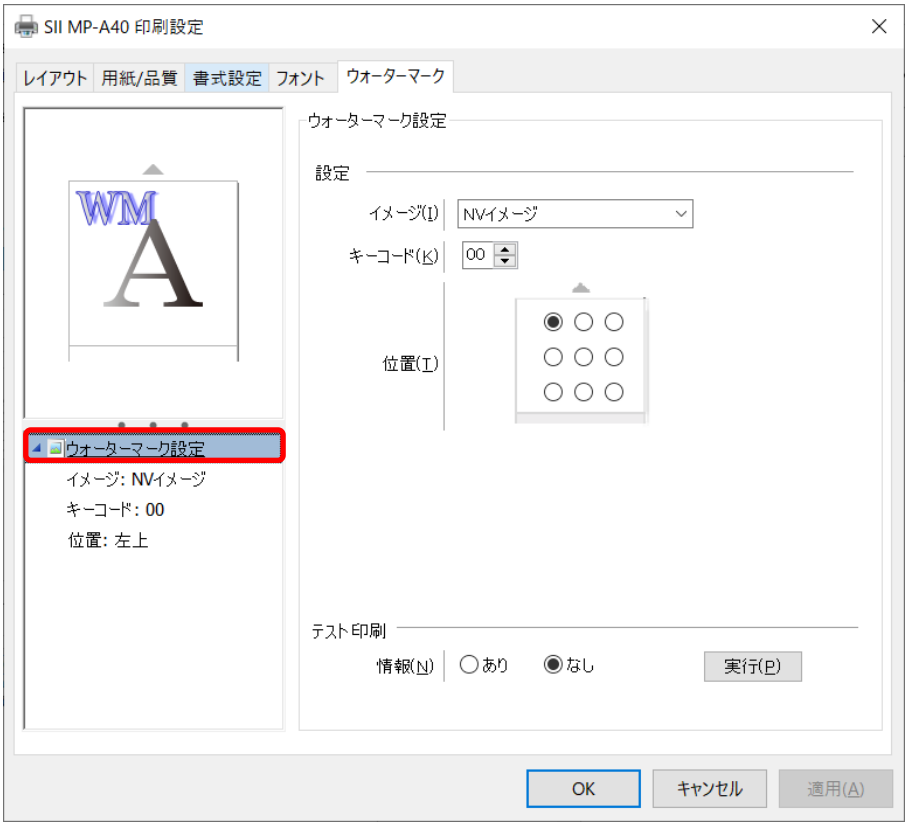


図 3-14 [ウォーターマーク設定]画面

項目	説明（"___":初期値）
設定	ウォーターマークについて設定します。
イメージ(I)	ウォーターマークで使用するイメージの種類を設定します。※1 ・なし ・NVイメージ
キーコード(K)	ウォーターマークに使用するイメージのキーコードを入力します。※2 ・00 ～ 99
位置(T)	ウォーターマークの位置を選択します。※2 ・左上 ・中央上 ・右上 ・左 ・中央 ・右 ・左下 ・中央下 ・右下
テスト印刷	テスト印刷について設定します。※2
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・あり ・なし
実行(P)	入力された設定・データでウォーターマークを印刷します。

※1: 「なし」以外を選択すると、IPDフォントは使用できません。
※2: [イメージ(I)]を「なし」に選択している場合は、表示されません。

3.5.5 ウォーターマークの利用

下記にウォーターマークを利用する手順について説明します。

1. ウォーターマークに使用するイメージを登録します。NVイメージの登録については、「SII Printer Setting Utiltiy for Windows 取扱説明書」を参照してください。
2. [印刷設定]の[ウォーターマーク設定]画面の[イメージ(I)]で「NVイメージ」を選択します。
3. ウォーターマークに使用するイメージのキーコードを[キーコード(K)]に入力します。
4. ウォーターマークの位置を[位置(T)]で選択します。
5. [適用(A)]ボタンをクリックします。

3.6 詳細設定

3.6.1 詳細オプションの設定

[レイアウト]タブ及び[用紙/品質]タブの、右下の[詳細設定(V)...]ボタンをクリックし、下記の画面を表示します。

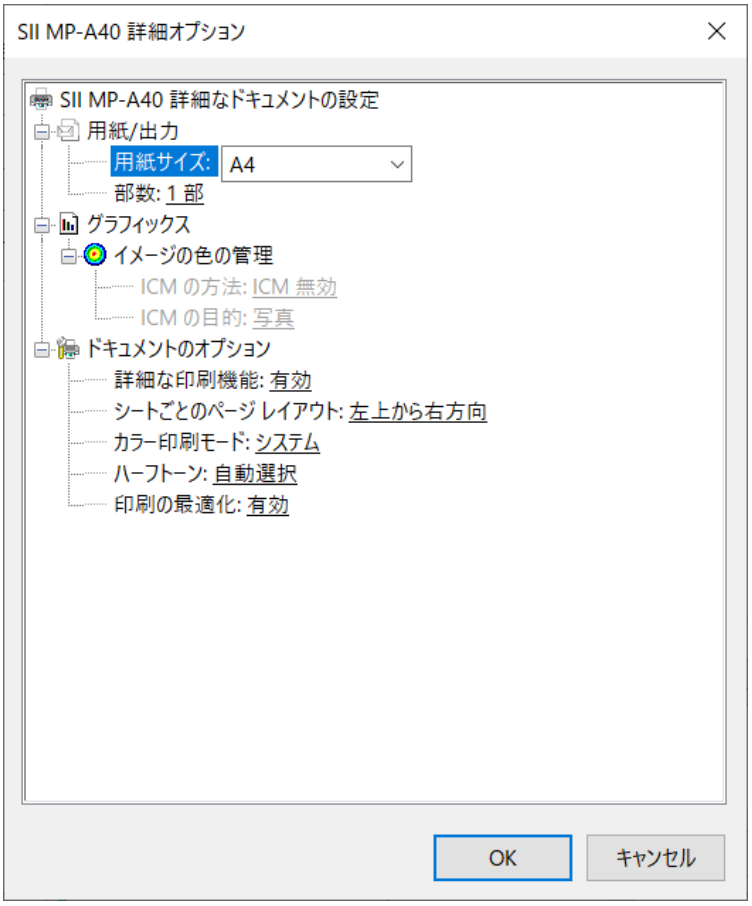


図 3-15 [詳細オプション]画面

項目	説明 (″___″:初期値)
用紙/出力	用紙サイズ、部数を設定します。
用紙サイズ	使用する用紙サイズを選択します。※1 ・112 x 297 mm ・105 x 297 mm ・100 x 297 mm ・ 80 x 297 mm ・112 x 1188 mm ・105 x 1188 mm ・100 x 1188 mm ・ 80 x 1188 mm ・A4※2 ・Letter※3
部数	印刷する部数を入力します。(単位:部) ・1 ～ 9999

項目	説明（"___":初期値）
グラフィックス	ICMの方法、目的を設定します。※4
ICMの方法	ICMの方法を選択します。 ・ICM無効 ・ホストシステムによるICM処理 ・プリンターによるICM処理
ICMの目的	ICMの目的を選択します。 ・グラフィック ・写真 ・校正 ・一致
ドキュメントのオプション	ドキュメントのオプションを設定します。
詳細な印刷機能	詳細な印刷機能を選択します。 ・有効 ・無効
シートごとの ページレイアウト	シートごとのページレイアウトを選択します。 ・左上から右方向 ・左上から下方向 ・右上から左方向 ・右上から下方向
カラー印刷モード	カラー印刷モードを選択します。 ・システム ・ドライバー この選択は「3.2 用紙・品質」の[色]の設定と連動しています。※5
ハーフトーン	ハーフトーンを選択します。※6 ・自動選択 ・スーパーセル ・ディザー 2x2 ・ディザー 4x4 ・ディザー 6x6 ・ディザー 8x8
印刷の最適化	印刷の最適化を選択します。 ・有効 ・無効

※1: ユーザーが新規に登録した用紙を設定することもできます。用紙を登録する方法については、「6.4 カスタム用紙の登録方法」を参照してください。
※2: 日本語環境での初期値です。
※3: 日本語環境以外での初期値です。
※4: 「3.2 用紙・品質」の[色]で「カラー(O)」を選択した場合のみ設定できます。
※5: 「システム」を選択した場合は[用紙/品質]タブの[色]が「白黒(C)」、「ドライバー」を選択した場合は[用紙/品質]タブの[色]が「カラー(O)」に連動します。詳しくは「3.2 用紙・品質」を参照してください。
※6: 「3.2 用紙・品質」の[色]で「カラー(O)」を選択した場合は、「自動選択」以外は選択できません。

4章　プロパティ

本章ではプロパティ設定について説明します。

プロパティ設定は[プロパティ]ダイアログに各種設定画面が表示され、それぞれ確認及び変更できます。

[プロパティ]ダイアログ上で表示される設定画面には下記の種類があります。

- 全般　　：プリンタードライバー全般の管理及びテストページを印刷します。
- 共有　　：共有プリンターを設定します。
- ポート　：出力ポートを設定します。
- デバイス：デバイスを設定します。
- ツール　：プリンタードライバーのバージョン情報と各種ツールの起動ボタンを表示します。

[プロパティ]ダイアログ上の設定画面は下記の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内に表示されているプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示します。
2. 表示されたサブメニューから[プリンターのプロパティ(P)]を選択します。

各詳細は次項以降で説明します。

注意

◆ [プロパティ]画面で表示される上記以外の設定画面は、インストール時の設定のままで使用してください。

4.1 全般

プリンタードライバー全般の管理及びテストページを印刷します。

4.1.1 全般の設定

[全般]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 4-1 [全般]画面

項目	説明
プリンター名	プリンター名を表示、変更します。※1
場所(L)	プリンターの設置場所を入力します。
コメント(C)	コメントを入力します。
モデル(O)	プリンタードライバー名を表示します。
基本設定(E)...	[印刷設定]画面が開きます。
テストページの印刷(T)	Windowsのテスト印刷を実行します。※2

※1: プリンター名を変更した場合、[基本設定(E)...]で設定していた値は初期化される場合があります。
※2: [テストページの印刷(T)]による印刷は、小型プリンター向け用紙幅では正しく印刷できないため印刷内容が崩れますが、不具合ではありません。

4.2 共有

共有プリンターを設定します。

4.2.1 共有の設定

[共有]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 4-2 [共有]画面

項目	説明
このプリンターを共有する(S)	チェックを入れ、[共有名(H)]に任意の共有名を入力するとプリンタードライバーをネットワーク上の別のコンピューターから利用できます。
共有名(H)	プリンターの共有名を入力します。
追加ドライバー(D)...	この機能はサポートしていません。

注意

◆共有プリンターでの使用は、ネットワークの利用状況等により正常に動作しないことがあります。

4.3 ポート

出力ポートを設定します。

4.3.1 ポートの設定

[ポート]タブを選択し、下記の画面を表示します。

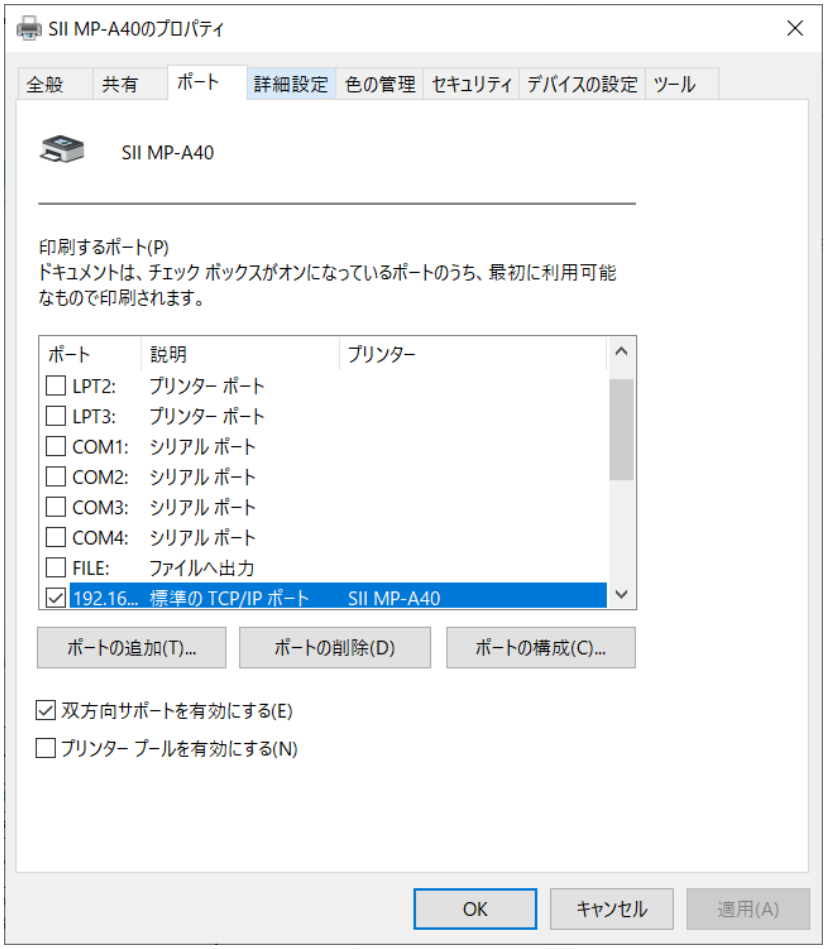


図 4-3 [ポート]画面

項目	説明
ポートの追加(T)...	ユーザーがポートを追加できます。
ポートの削除(D)	ユーザーが追加したポートを削除できます。
ポートの構成(C)...	シリアル接続時の通信について設定します。※1
双方向サポートを有効にする(E)	プリンターから情報を取得するにはチェックボックスをオンにします。※2
プリンタープールを有効にする(N)	有効にすることで複数のポートのチェックボックスをオンにできるようになり、複数のポートに接続しているプリンターで同じ内容を印刷できます。※3

※1: 設定にはコンピューターの管理者権限が必要です。
※2: チェックボックスをオフにした場合は、ツール及びSDKは使用できなくなります。
※3: SDKを利用する場合は、必ずチェックボックスをオフにしてください。

4.4 デバイス

デバイスを設定します。

4.4.1 デバイスの設定

[デバイス]タブを選択し、下記の画面を表示します。

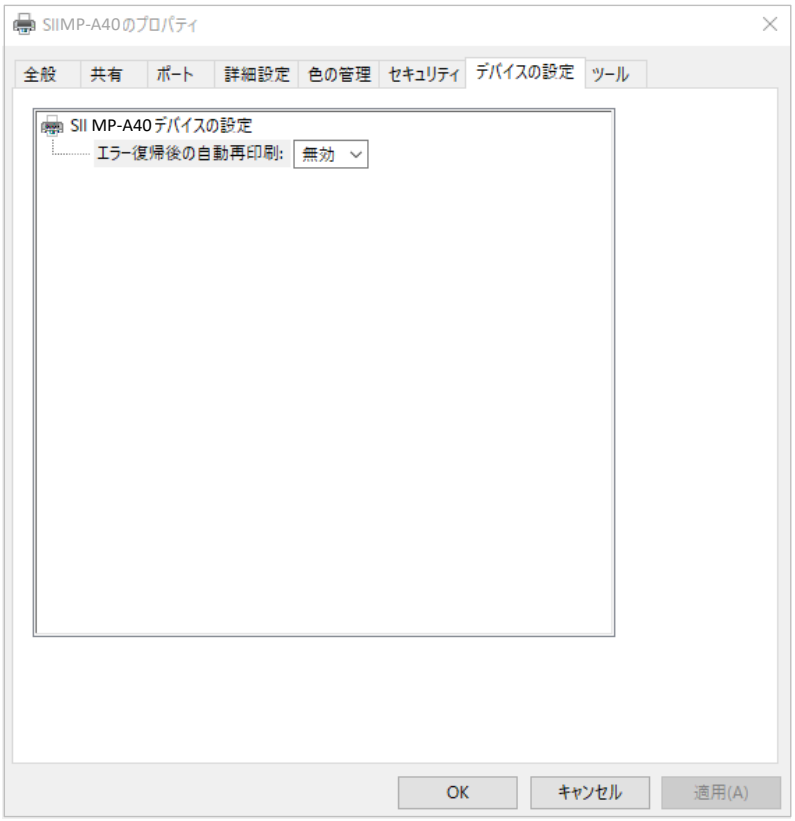


図 4-4 [デバイス]画面

項目	説明
エラー復帰後の自動再印刷	有効にすることで、プリンタが印刷中に印刷不可のステータスになると、プリンタが印刷可能なステータスに復帰した際に、自動で再印刷を行います。

4.5 ツール

プリンタードライバーのバージョン情報と各種ツールの起動ボタンを表示します。

各種ツールの詳細については、「SII Printer Setting Utility for Windows 取扱説明書」を参照してください。

5章　ツール

各種ツールについては、「SII Printer Setting Utility for Windows 取扱説明書」を参照してください。

6章　用紙設定

6.1 概要

本章では用紙設定について説明します。

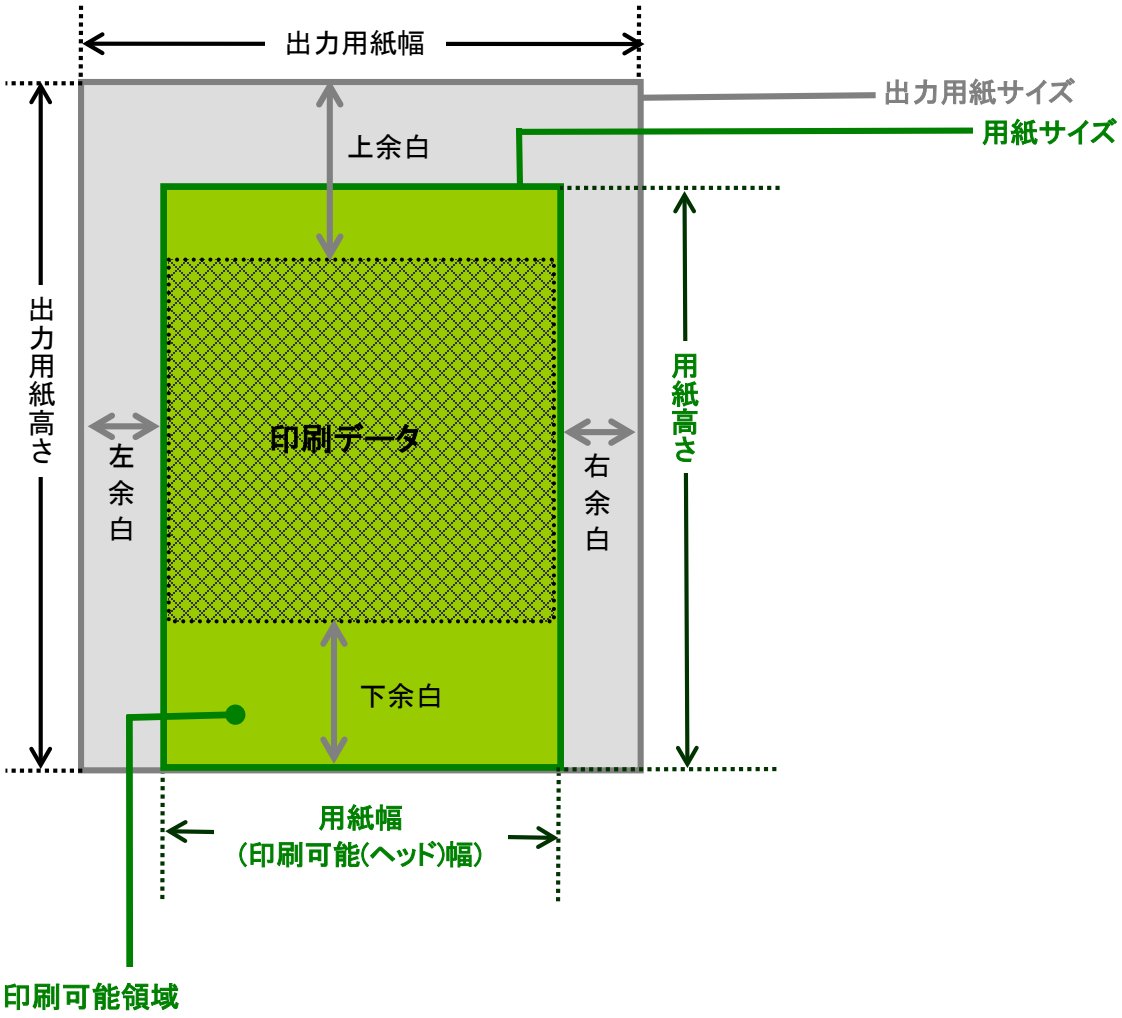
本章で使用する用語について下記に記載します。

用語	内容
高さ	紙排出方向を縦とした場合の縦方向のサイズ
幅	紙排出方向を縦とした場合の横方向のサイズ
出力用紙サイズ	実際に出力される用紙(ロール紙)サイズ
用紙サイズ	プリンタードライバー上で指定する、印刷可能領域のサイズ
標準用紙	インストール時に予め登録される用紙サイズ
カスタム用紙	ユーザーが新規に登録可能な用紙サイズ

注意

- ◆ カスタム用紙を登録する際に指定するサイズは、出力用紙サイズではなく用紙サイズ(印刷可能領域のサイズ)を指定します。
- ◆ A4、Letter以外の標準用紙の名称は「出力用紙の幅」となっていますが、用紙サイズと一致するものではありません。

下記に印刷イメージ図を示します。



※上記イメージは印刷イメージであり、印字終了位置は「3.3.6 用紙送り設定」の[カット位置まで紙送り(F)]の設定により異なります。

6.2 用紙サイズ

利用する出力用紙の幅ごとに利用できる用紙サイズの組合せは下記の通りです。

出力用紙幅	用紙種類	用紙名称	用紙サイズ(範囲)	
			幅	高さ
112 mm	標準用紙	112 x 297 mm	104 mm	297 mm
		112 x 1188 mm	104 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ～ 104 mm	30 mm ～ 3276 mm
105 mm	標準用紙	105 x 297 mm	97 mm	297 mm
		105 x 1188 mm	97 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ～ 97 mm	30 mm ～ 3276 mm
100 mm	標準用紙	100 x 297 mm	92 mm	297 mm
		100 x 1188 mm	92 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ～ 92 mm	30 mm ～ 3276 mm
80 mm	標準用紙	80 x 297 mm	72 mm	297 mm
		80 x 1188 mm	72 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ～ 72 mm	30 mm ～ 3276 mm

用紙サイズは下記を指定してください。

- 用紙幅　= 出力用紙幅 – 左余白 – 右余白
- 用紙高さ = 出力用紙高さ – ヘッドとティアバー間の紙送り

余白とヘッドとティアバー間の紙送りについては、「6.3 余白」を参照してください。

6.3 余白

下記に余白サイズについて説明します。

以降の説明では、「3.1.1 レイアウトの設定」の[印刷の向き(O)]が「縦」、「3.3.5 基本設定」の[方向(R)]が「順」となっていることを前提として説明します。

用紙幅方向の余白は下記の通りです。

左余白

4mmの左余白が発生します。

右余白

下記の右余白が発生します。

右余白 = 出力用紙幅 − 用紙幅 − 左余白

上余白

上余白とは、用紙サイズ内で印刷データよりも上の印刷データがない部分と、ヘッドとティアバー間の紙送りの長さを含めた部分です。

「3.3.6 用紙送り設定」の[カット位置まで紙送り(F)]の選択による動作は下記の通りです。

- [カット位置まで紙送り(F)]を「する」にした場合 :
  カット位置までの紙送りをします。多少の誤差が発生する場合があります。
- [カット位置まで紙送り(F)]を「しない」にした場合 :
  カット位置までの紙送りをしません。印刷下部が切れる場合があります。

下余白

下余白とは、用紙サイズ内で印刷データよりも下の印刷データがない部分です。

ただし、「3.3.5 基本設定」の[余白(M)]が下余白を最小にする設定であった場合は、印刷可能領域内に下余白が存在しない場合があります。

注意

- ◆ 「3.3.6 用紙送り設定」の[カット位置まで紙送り(F)]を「しない」に設定した場合、ヘッドとティアバー間の長さ分、印刷可能領域の内側で印刷が終了します。
- ◆ プリンターの用紙幅設定とプリンタードライバーの用紙サイズ幅が合致しない場合、印刷内容が崩れる場合があります。
- ◆ 用紙サイズの内容に対し用紙高さについては、プリンターの機構上、若干の誤差が生じる場合があります。
- ◆ マーク紙を利用する場合、利用できる用紙高さは下記の通りです。
  ＊用紙高さ ＜ マーク間の距離 −16mm

  マーク紙を利用する場合、プリンター側の最大余白サイズは「6.3 余白」の上余白、下余白と異なります。
- ◆ ロゴの印刷、紙送り、カット位置まで紙送り、カスタムコマンドによる印刷は、用紙サイズ内では実行されませんので、指定した用紙サイズより長く印刷される場合があります。

参考

- ユーザーが新規に用紙を登録する方法については、「6.4 カスタム用紙の登録方法」を参照してください。

6.4 カスタム用紙の登録方法

下記にカスタム用紙の登録手順の一例を示します。

1. [プリント サーバーのプロパティ]画面の[用紙]タブを選択します。
2. [新しい用紙を作成する(C)]のチェックボックスをオンにします。
3. [用紙名(N)]に用紙名を入力します。
4. [単位]の「メートル法(M)」を選択します。
5. [用紙サイズ]の[幅(W)]にカスタム用紙の用紙幅を入力します。
6. [用紙サイズ]の[高さ(H)]にカスタム用紙の用紙高さを入力します。
7. [用紙の保存(S)]ボタンをクリックします。

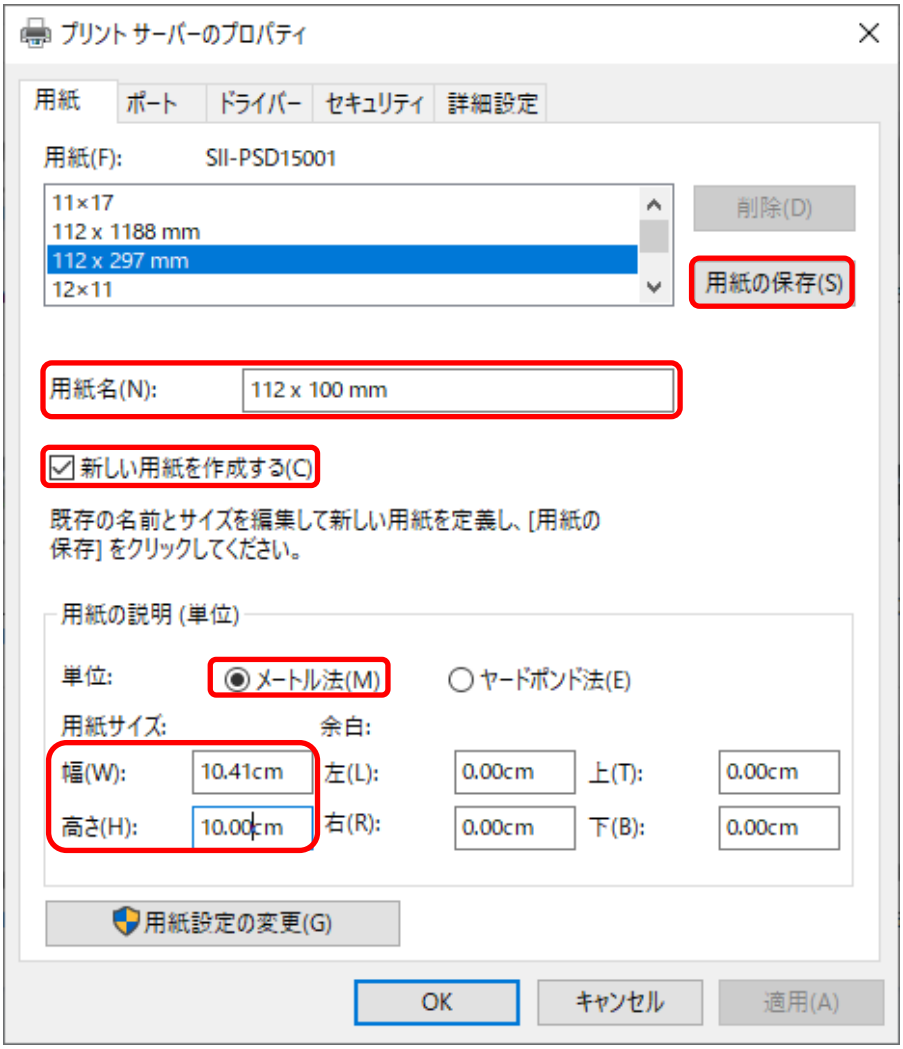


図 6-1 [プリント サーバーのプロパティ]画面

注意

- ◆ カスタム用紙の登録にはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ カスタム用紙は「6.2 用紙サイズ」の[用紙サイズ(範囲)]を考慮して登録してください。[用紙]上に表示されている用紙の中で「6.2 用紙サイズ」の[用紙サイズ(範囲)]に記載された内容に該当する用紙のみプリンタードライバーで利用できます。

7章　フォント

7.1 概要

本章ではフォント印刷機能について説明します。

プリンタードライバーで扱うことのできるフォントの種類には下記の種類があります。

- TrueTypeフォント　：Windowsに搭載されているフォントです。
- デバイスフォント　：プリンターに搭載されているフォントです。
- バーコードフォント　：プリンターでバーコードを印刷するための特殊フォントです。
- 2次元バーコードフォント：プリンターで2次元バーコードを印刷するための特殊フォントです。
- コントロールフォント　：予め登録されているプリンターコマンドを利用するための特殊フォントです。
- コントロールAフォント　：ユーザーが登録したプリンターコマンドを利用するための特殊フォントです。

参考

- TrueTypeフォント
  TrueTypeフォントでは、斜体など文字修飾やフォントサイズを自由に変更できます。また、ほぼ画面イメージ通りの印刷が可能です。
  TrueTypeフォントの印刷はイメージデータとして印刷されます。Bluetooth接続を使用している場合で印刷データが多い場合は、プリンターとの通信に時間がかかるため印刷が遅くなる場合があります。

注意

◆ IPDフォントを使用する場合、以下の設定にしてください。
- 「3.1.1 レイアウトの設定」の[印刷の向き(O)]　:「縦」
- 「3.3.5 基本設定」の[方向(R)]　:「順」
- 「3.3.5 基本設定」の[縮小(E)]　:「縮小しない」
- 「3.5.4 ウォーターマークの設定」の[イメージ(I)]　:「なし」

◆ 特殊フォントは、プレビューや編集画面ではイメージとして表示されません。

◆ 特殊フォントを使用すると、指定した用紙サイズより長く印刷されることがあります。

◆ 1行の中にデバイスフォントとバーコードフォント、2次元バーコードフォントは並べて印刷できません。

◆ 1行の中にTrueTypeフォントとIPDフォントは並べて印刷できません。

◆ 1行の中にイメージとIPDフォントは並べて印刷できません。

7.2 デバイスフォント

デバイスフォントとは、プリンターに内蔵されているフォントセットです。プリンターの印刷性能通りの印刷品質を得られます。TrueTypeフォントよりも高速で印刷できます。

漢字コード体系は、使用している言語環境によって異なります。

Windows OS	システムロケール	漢字コード体系
日本語	日本語（日本）	シフトJISコード
	日本語（日本）以外	JISコード
日本語以外	日本語（日本）	シフトJISコード
	日本語（日本）以外	JISコード

文字列のエンコードは、[印刷設定ダイアログ] - [フォント]タブの[デバイスフォント設定]の選択によって異なります。
[デバイスフォント設定]の「文字コードテーブル(C)」が初期値の場合は、文字列のエンコードは、システムで現在有効になっているANSIコードページで行われます。
[デバイスフォント設定]の「文字コードテーブル(C)」が初期値以外の場合は、文字列のエンコードは、[デバイスフォント設定]で選択しているコードページで行われます。コードページの詳細は「3.4.4 デバイスフォントの設定」を参照してください。

注意

- ◆ 文字に斜体を指定しても反映されません。
- ◆ 文字にアンダーラインを指定した場合は、デバイスフォントのアンダーラインで印刷されるため、アンダーラインの位置や線種は固定です。

7.2.1 デバイスフォントの種類の選択

デバイスフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明
IPD Font A※1	8.5ポイント	欧文	24x12　標準フォント
	17ポイント		24x12　縦倍角フォント
IPD Font A Wide※1	8.5ポイント		24x12　横倍角フォント
	17ポイント		24x12　4倍角フォント
IPD Font B※1	5.5ポイント		16x8　標準フォント
	11.5ポイント		16x8　縦倍角フォント
IPD Font B Wide※1	5.5ポイント		16x8　横倍角フォント
	11.5ポイント		16x8　4倍角フォント

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明
IPD Font A Japanese※2	8.5ポイント	日本語	24x12　標準フォント
	17ポイント		24x12　縦倍角フォント
IPD Font A Wide Japanese※2	8.5ポイント		24x12　横倍角フォント
	17ポイント		24x12　4倍角フォント
IPD Font B Japanese※2	5.5ポイント		16x8　標準フォント
	11.5ポイント		16x8　縦倍角フォント
IPD Font B Wide Japanese※2	5.5ポイント		16x8　横倍角フォント
	11.5ポイント		16x8　4倍角フォント

※1:　日本語環境では表示されません。
※2:　日本語環境以外では表示されません。

7.2.2　デバイスフォントの印刷

デバイスフォントを印刷するには、汎用アプリケーションから印刷する、またはプログラミングによる印刷などの方法があります。

7.3 バーコードフォント

バーコードフォントとは、アプリケーション側でバーコードを生成しなくても、このフォントを指定することでバーコードを印刷できる特殊なフォントです。

バーコードフォントは、バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは10種類(IPD Barcode1～10)の設定を登録できます。登録方法は「3.4.5 バーコードフォントの設定」を参照してください。

注意

◆ バーコード設定やデータの指定により印字幅以上のバーコードになってしまう場合は、正しく印刷されません。

7.3.1 バーコードフォントの種類の選択

バーコードのフォント名は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Barcode1	8.5ポイント	欧文
IPD Barcode2		
IPD Barcode3		
IPD Barcode4		
IPD Barcode5		
IPD Barcode6		
IPD Barcode7		
IPD Barcode8		
IPD Barcode9		
IPD Barcode10		

7.3.2 バーコードフォントの印刷

バーコードフォントを印刷するには、汎用アプリケーションから印刷する、またはプログラミングによる印刷などの方法があります。

バーコードフォントデータの入力条件は下記の通りです。使用可能なデータをASCII形式で入力してください。

種別	データ数	使用可能なデータ	備考
UPC-A	11 ～ 12文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	-
UPC-E	11 ～ 12文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	-
JAN13 (EAN13)	12 ～ 13文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	-
JAN8 (EAN8)	7 ～ 8文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	-
Code39	1文字以上	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39) 'A' ～ 'Z' (0x41 ～ 0x54) ' ' (0x20) '$' (0x24) '%' (0x25) '+' (0x2B) '-' (0x2D) '.' (0x2E) '/' (0x2F)	スタートコード及びストップコード('*')は自動で付加されます。
ITF	2文字以上 (ただし偶数個)	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	偶数個のデータを指定してください。 奇数個のデータを指定した場合、正常に印刷されない場合があります。
CODABAR	1文字以上	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39) '$' (0x24) '+' (0x2B) '-' (0x2D) '.' (0x2E) '/' (0x2F) ':' (0x3A)	スタートコード及びストップコード('A' ～ 'D')の設定は「3.4.5 バーコードフォントの設定」を参照してください。
CODE128	2文字以上	(0x00 ～ 0x7F) ※1 ※2 ※3	-
CODE93	1文字以上	(0x00 ～ 0x7F) ※2 ※3	-
JAN13 (EAN13) add-on 2	12 ～ 13 + 2文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	-
JAN13 (EAN13) add-on 5	12 ～ 13 + 5文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	-

種別	データ数	使用可能なデータ	備考
GS1 Databar Omni-directional	13文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます
GS1 Databar Truncated	13文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます
GS1 Databar Limited	13文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます
GS1 Databar Expanded※5	2文字以上	' ' ～ '"' (0x20 ～ 0x22)※3	–
		'%' ～ '?' (0x25 ～ 0x3F)	
		'A' ～ 'Z' (0x41 ～ 0x5A)	
		'_' (0x5F)	
		'a' ～ 'z' (0x61 ～ 0x7A)	
		'{' (0x7B) ※4	

※1: CODEの選択によって使用できるデータが異なります。
・CODE A:0x00～0x5F
・CODE B:0x20～0x7F
・CODE C:00～99 (0x00～0x63) の2桁の数字
下記の特殊キャラクターによりCODE、FNC、SHIFTの選択を行います。

コード	CODE A	CODE B	CODE C
{S	SHIFT	SHIFT	SHIFT
{A	–	CODE A	CODE A
{B	CODE B	–	CODE B
{C	CODE C	CODE C	–
{1	FNC1	FNC1	FNC1
{2	FNC2	FNC2	FNC2
{3	FNC3	FNC3	FNC3
{4	FNC4	FNC4	FNC4
{{	'{'	'{'	–

※2: 0x00～0x1F、0x7Fを利用する場合、「3.4.5 バーコードフォントの設定」の[16進入力(E)]を有効にすることでコード入力が可能です。
※3: 0x20は、「3.4.5 バーコードフォントの設定」の[16進入力(E)]が「有効」の場合のみ使用できます。
※4: '{'は、FNCを指定する場合にのみ利用してください。
FNC1を指定する場合、'{', '1'(0x7B, 0x31)を入力します。
※5: 有効な入力データの詳細は、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」を参照してください。

7.4 2次元バーコードフォント

2次元バーコードフォントとは、アプリケーション側で2次元バーコードイメージを生成しなくても、このフォントを指定することで2次元バーコードを印刷できる特殊なフォントです。

2次元バーコードフォントは、2次元バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは5種類(IPD 2D-Barcode1～5)の設定を登録できます。登録方法は「3.4.6 2次元バーコードフォントの設定」を参照してください。

文字列のエンコードは、システムで現在有効になっているANSIコードページで行われます。

注意

◆ 2次元バーコード設定やデータの指定により印字幅以上の2次元バーコードになってしまう場合は、正しく印刷されません。

7.4.1 2次元バーコードフォントの種類の選択

2次元バーコードのフォント名は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD 2D-Barcode1	8.5ポイント	欧文/日本語※1
IPD 2D-Barcode2		
IPD 2D-Barcode3		
IPD 2D-Barcode4		
IPD 2D-Barcode5		

※1: 日本語以外の環境では文字セット(フォントスクリプト)を「欧文」にしてください。
日本語環境では文字セット(フォントスクリプト)を「日本語」にしてください。

7.4.2 2次元バーコードフォントの印刷

2次元バーコードフォントを印刷するには、汎用アプリケーションから印刷する、またはプログラミングによる印刷などの方法があります。

有効な入力データの詳細は、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」を参照してください。

7.5 コントロールフォント

コントロールフォントとは、固定の文字に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。

7.5.1 コントロールフォントの種類の選択

コントロールフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Control	8.5ポイント	欧文

7.5.2 コントロールフォントの使用

コントロールフォントを使用するには、汎用アプリケーションから使用する、またはプログラミングして使用するなどの方法があります。

コントロールフォントとして割り当てられた文字と動作は下記の通りです。

割当文字	動作
5	HT
6	LF
7	CR
h	NVイメージ00(30,30) 印刷
i	NVイメージ01(30,31) 印刷
j	NVイメージ02(30,32) 印刷
k	NVイメージ03(30,33) 印刷
l	NVイメージ04(30,34) 印刷
m	倒立印字の指定
n	倒立印字の解除
o	白黒反転印字の指定
p	白黒反転印字の解除
q	アンダーラインの指定
r	アンダーラインの解除
s	強調印字の指定
t	強調印字の解除
u	文字の90度右回転の指定

割当文字	動作
v	文字の90度右回転の解除
w	位置揃え 左
x	位置揃え 中央
y	位置揃え 右
G	NVイメージ00(30,30) Normal印刷
H	NVイメージ01(30,31) Normal印刷
I	NVイメージ02(30,32) Normal印刷
J	NVイメージ03(30,33) Normal印刷
K	NVイメージ04(30,34) Normal印刷
P	カット位置まで紙送り
Q	カット位置まで紙送り
[	NVイメージ00(30,30) 4倍印刷
]	NVイメージ01(30,31) 4倍印刷
^	NVイメージ02(30,32) 4倍印刷
_	NVイメージ03(30,33) 4倍印刷
`	NVイメージ04(30,34) 4倍印刷
–	–

・ NVイメージの括弧内のキーコードは16進数です。

注意

◆ 90度回転時には、アンダーラインは付きません。

7.6 コントロールAフォント

コントロールAフォントとは、文字に事前に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。プリンターコマンドについては、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」を参照してください。

コントロールAフォントは、実行するプリンターコマンドを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは0x20～0x7Fまでの文字に任意のプリンターコマンドを登録できます。登録方法は「3.4.7 コントロールAフォントの設定」を参照してください。

7.6.1 コントロールAフォントの種類の選択

コントロールAフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	フォントスクリプト
IPD ControlA	8.5ポイント	欧文

7.6.2 コントロールAフォントの使用

コントロールAフォントを使用するには、汎用アプリケーションから使用する、またはプログラミングして使用するなどの方法があります。